

平成26年度

地域魅力化応援隊員

## 業務報告書《総括表》



地域魅力化応援隊員が魅力ある地域づくりを応援します

益田市政策企画局人口拡大課

|                         |             |
|-------------------------|-------------|
| (1) 平成 26 年度地域魅力化応援隊員名簿 | P. 2        |
| (2) 益田地区                | P. 3～P. 6   |
| (3) 吉田地区                | P. 7～P. 10  |
| (4) 高津地区                | P. 11～P. 14 |
| (5) 安田地区                | P. 15～P. 18 |
| (6) 鎌手地区                | P. 19～P. 22 |
| (7) 種地区                 | P. 23～P. 25 |
| (8) 北仙道地区               | P. 26～P. 29 |
| (9) 豊川地区                | P. 30～P. 33 |
| (10) 真砂地区               | P. 34～P. 36 |
| (11) 西益田地区              | P. 37～P. 38 |
| (12) 美濃地区               | P. 39～P. 42 |
| (13) 小野地区               | P. 43～P. 46 |
| (14) 中西地区               | P. 47～P. 50 |
| (15) 二川地区               | P. 51～P. 54 |
| (16) 匹見上地区              | P. 55～P. 58 |
| (17) 匹見下地区              | P. 59～P. 62 |
| (18) 地域魅力化応援隊員事業実施要綱    | P. 63       |

【地域魅力化応援隊員とは】

総務省が制度化している「集落支援員制度（特別交付税措置）」の益田市版で、地域の課題整理や住民同士の話し合いの促進等により、住民自治機能の強化を支援します。地域魅力化応援隊員は、配置の希望があった地区振興センターに配置しています。

平成 26 年度地域魅力化応援隊員名簿

| No. | 配置先         | 活動地区  | 氏名    | 採用年月         |
|-----|-------------|-------|-------|--------------|
| 1   | 益田地区振興センター  | 益田地区  | 石田 貢三 | 平成 26 年 4 月  |
| 2   | 吉田地区振興センター  | 吉田地区  | 徳屋 映三 | 平成 26 年 4 月  |
| 3   | 高津地区振興センター  | 高津地区  | 堀江 栄二 | 平成 26 年 4 月  |
| 4   | 安田地区振興センター  | 安田地区  | 大畑 明子 | 平成 26 年 4 月  |
| 5   | 鎌手地区振興センター  | 鎌手地区  | 鶴頭 定廣 | 平成 26 年 7 月  |
| 6   | 種地区振興センター   | 種地区   | 川辺 雅秀 | 平成 26 年 5 月  |
| 7   | 北仙道地区振興センター | 北仙道地区 | 堀江 宗仁 | 平成 26 年 4 月  |
| 8   | 豊川地区振興センター  | 豊川地区  | 岡崎 友臣 | 平成 26 年 4 月  |
| 9   | 真砂地区振興センター  | 真砂地区  | 齋藤 浩文 | 平成 26 年 4 月  |
| 10  | 西益田地区振興センター | 西益田地区 | 栗山 三男 | 平成 26 年 12 月 |
| 11  | 美濃地区振興センター  | 美濃地区  | 真庭 太樹 | 平成 26 年 4 月  |
| 12  | 小野地区振興センター  | 小野地区  | 山本 勉  | 平成 26 年 7 月  |
| 13  | 中西地区振興センター  | 中西地区  | 若槻 久嘉 | 平成 26 年 4 月  |
| 14  | 二川地区振興センター  | 二川地区  | 小原 静伍 | 平成 26 年 4 月  |
| 15  | 匹見上地区振興センター | 匹見上地区 | 大畑 馨  | 平成 26 年 5 月  |
| 16  | 道川地区振興センター  | 道川地区  | 高田 純子 | 平成 26 年 4 月  |

計 16 名

地域魅力化応援隊員 氏名 石田 貢三

平成 26 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

益田地区振興センター

2. 配置年月

平成 26 年 4 月 1 日

3. 活動の概要

(1) 活動の内容

① 地域自治組織設立支援

(ア) 益田地区振興センター運営委員会を母体として各種団体より委員を募り準備会を設立した。 6 月 26 日

(イ) 準備会への説明用に、全国先進各地の情報収集を行う。随時

(ウ) 地域自治組織益田地区説明会 12 月 24 日

(エ) 地域自治組織準備会会議 1 月 21 日

(オ) 地域自治組織準備会・視察研修会 2 月 5 日

(カ) 地域自治組織準備会会議 2 月 19 日

(キ) 益田公民館・益田地区振興センター運営委員会 3 月 6 日

地域自治組織設立準備スケジュールの調整

(ク) 益田地区自治会連合会総会 3 月 17 日

地域自治組織設立についての説明



② 地域魅力化事業の支援

(ア) 歴史探訪ウォーキング大会 平成 26 年 9 月 29 日実施。企画、準備、実施の支援を行った。

(イ) 旧山陰道整備（山彦会）事業支援、整備・清掃活動のお手伝いを行う。

(ウ) ななお手づくり鎧かぶと事業の支援、益田家文書展（前期及び後期）のスタンプラリーに、高校生に甲冑を着てもらい、手づくり鎧武者隊として運営に協力した。同じく高校生 6 名に手づくり甲冑を着てもらい、益田七尾まつりの益田公武者行列に参加してもらった。また、島根県の若手職員の「もっと現場を知ろう！」事業にも協力、女性職員 2 名に、手づくり鎧かぶと作りを手伝ってもらい、前記の益田家文書展と益田七尾まつりに参加してもらった。

(2) 活動の成果及び効果

① 地域自治組織設立支援

(ア) 30 年度の設立に向け取り組みを開始した。6 月 26 日

- (イ)全国先進各地の取り組み状況、課題等がある程度理解できた。随時
- (ウ)準備委員21名の内13名、自治会長28名の内23名、計36名が参加、自治会長には一定の理解が出来たと感じる。12月24日
- (エ)視察研修会（山口市市街地2カ所）実施を確認、参加を募る。1月21日

- (オ)視察研修会は9名が参加、各地区の取り組み状況等の説明を受け、意見交換等で様々な意見交換が出来、大変参考になり、準備会会員内でも理解度が進んだと感じる有意義な研修であった。不参加の会員との情報共有が課題。2月5日



山口市大内地区での視察研修

- (カ)山口市視察研修の概要を説明し、情報共有を行う。参加しなかった人との情報共有がある程度できた。今後の基本方針、取り組み方法等も協議した。2月19日

## ② 地域魅力化事業の支援

- (ア)歴史探訪ウォーキング大会 平成26年9月28日実施。

120名の参加、益田市名誉市民 田淵久美子さんも参加、七尾本丸跡での「三宅御土居に届く大声をだそう」も実施、子どもから大人まで、大声を出し、楽しまれた。



第13回歴史探訪ウォーキング

- (イ)旧山陰道整備（山彦会）整備作業を3回実施し、山彦会会員がのべ38名参加した。今年度は、益田地区の旧山陰道を歩くイベントではないが、鎌手地区で、2月28日に行われる。来年度以降、四境戦争（益田戦争）より150年が2016年に、明治維新より150年が2017年に当たる。萩市や浜田市、江津市等との連携で、ウォーク大会等のイベント開催も期待できる。
- (ウ)ななお手づくり鎧かぶと事業の支援、益田家文書展（前期及び後期）のスタンプラリーに、高校生が延べ12名参加、益田七尾まつりにも東高校生徒6名が益田公武者行列に参加してもらった。また、島根県の若手職員の「もっと現場を知ろう！」事業にも協力、女性職員2名も、前記の益田家文書展と益田七尾まつりに参加してもらった。益田地区の手づくり鎧かぶとが多くの市民や観光客に認知されたと感じる。

#### 4. 残された課題と今後の提案

##### \*課題

- ◇ 今回の地域自治組織導入について、市は「地域のためです。」と言うが、今年度当初より市役所担当部署の取り組み方、進め方に、ある種の「違和感」を感じていた。それが何なのか考えてきたが未だ確信はない。しかし、地域自治の主役は「地域」と口では言うが、実際には、「役所の都合で考えているのでは？」と感じる。協働に対する考え方も違う様に感じる。山口市等の先進地視察や先進自治体の講演会等に参加して感じたことは、市と地域（住民や地域自治組織準備委員会等）との、厚い信頼関係を構築しないと成功は難しいと感じる。命令的に言う、やらせるだけではなく、地域の現場に出て、見聞きし、話し合い、地域と共に考え、行動・協働することをお願いしたい。
- ◇ 地域活性化は、正解のないものと考える。地域ごとに考え方、やり方が違う。話し合い、より良いものを作り出す・作り上げる過程（プロセス）が大切なのではないか？益田市では、「地域自治組織設立＝地域の活性化＝人口拡大」と早急な成果・効果のみ追いかけるのは間違えではないか？もっと時間をかけ、信頼関係を醸成し、自分たちの地域は自分たちで守り、作り、活動する自治力を醸成するほうが先だと感じる。
- ◇ 益田市は、市内20地区で、地区ごとの地域自治組織設立に関わる取組に力を入れているが、益田市全域的に考えることも重要ではないか？一地区のみ、活性化し、人口が増えても、それが全市的な波及に繋がらなければ、「焼け石に水」になる可能性もある。中山間地区では本当に困っている地区もあります。近隣地区同士の助け合い、広域的に他の地区が助け合う取り組み、市街地地区（益田・吉田・高津地区）と中山間地区の連携・連動、益田市として、全域でどう取り組むかも重要と考える。
- ◇ 建物の問題、地域自治組織の拠点について、益田地区の公民館・地区振興センターは、築30数年で、老朽化が進み、エレベーターもなく、避難施設の設備もほとんどない、使いにくい建物となっている。これでは、新たな地域自治組織の拠点としては不適切と考える。
- ◇ 他の課題は、益田地区は世帯数約2300、人口約6800名の地区であり、多くの住民に対する情報発信・共有をどう進めるのか、どういう方法があるか、今後の課題の一つと考える。



##### \*今後の提案

- ◇ 益田地区において地域自治組織設立は、設立準備会を設立し、本設立に向けて機運が盛り上がり、動きが起こり始まりつつあると感じている。益田地区の最大の特徴は、地区最大のお祭り「益田七尾まつり」を企画・実施する「生き生き益田の会」と言う、益田地区自治会連合会を中心とし、地区社会福祉協議会、益田商店会、地区消

防団、地区老人クラブ連合会、地区ボランティアクラブ、益田地区振興センター等々が参加・加入している組織がある。この組織を基に、若い世代の代表として、益田小学校・益田東中学校 PTA や子供会連合会(子供会の連合会)も再編成し、その代表を加え、お祭だけでなく、益田地区の様々な行事を企画、実施し、また、課題・問題を解決する組織が出来ないと、いろいろな機会では提案し、説明している。

- ◇ 益田地区には、老舗の旅館「島田家」があったが、残念ながら閉館した。その建物を益田市が買上げ、地区の拠点、他の公共施設(益田児童館、益田地区の歴史的資料展示場等)や土産物売場、食事処や中世の食の提供場所等々の活用について提案したい。



## 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度より、地域魅力化応援隊員(以下、魅力化隊)として働いたが、昨年度までの3か年間、地域力アップ応援隊員(以下、アップ隊)として働いた時と比べ、「自ら考え・自ら進んでやる!」ではなく「言われたことをやらされている!」と感じることが多く在った。アップ隊の時は、隊員同士「同じ釜の飯を食う仲間＝仲間意識」があったが、魅力化隊では、それが無い。なぜか?魅力化隊には、「地域自治組織の設立」と「人口拡大」の二つのミッション(使命)があり、これらが原因していると感じる。アップ隊は、地域の活性化を図るという、ある意味何でも出来る風潮があった。それは、他地区より変わったことをやれば隊員同士の意識啓発に、同じことをすれば仲間意識の醸成に繋がっているのだと感じる。魅力化隊では、残念ながら、目の前のミッションにかまけ、隊員同士の連携、親睦に発展していない。

魅力化隊が「隊」として、益田市全域をターゲットとして捉え、お互いに連携、協調・協働、切磋琢磨できれば、このプロジェクトは面白くなると感じるが、益田市にはそのような考えは無いようである。また、プロジェクトの成否は、それを推し進めるリーダーの存在が重要。プロジェクトの重要性を自らの言動で知らしめ、リーダーシップをもって事に当たらなければ、原動力や加速力が出来ない。益田市として、最重要課題の取組であるが、管理・監督ばかりに目が行って、協働で仕事をする姿勢、推進していこうとするリーダーシップが、ほとんど感じられなかった。

今年度末をもって魅力化隊を退役します。アップ隊から足かけ4年、地域づくりのお手伝いが出来、新しい体験・経験もさせていただきました。この4年間で、自分自身の次の課題へ向けた挑戦の糸口を与えてくれたのは間違いないと感じています。これからも益田市の為に、益田地区の為に尽力しようと考えています。長い間お世話になりました。ありがとうございました。

地域魅力化応援隊員 氏名 徳屋 映三

平成 26 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

吉田地区振興センター

2. 配置年月

平成 26 年 4 月 1 日から（一年目）

3. 活動の概要

（1）活動の内容

今年度から、地域魅力化応援隊員としての活動業務でした。

吉田地区の地域魅力化プロジェクト事業として“地域魅力化事業”と“地域自治組織設立準備事業”の二つの事業での活動をしました。

魅力化隊員の役割は、・話し合いの場の設定、・計画策定等の事務サポート、・住民自治を高める方策の検討、・集落のアンケートに関することなどです。

その役割に沿って、昨年までの“地域力アップ事業”でも取り組んだ、吉田地区のまちづくり事業の基本方針である“地域住民が安全で安心して暮らせる、人に優しく活力のあるまちづくりを推進する”に基づく以下の 6 つの項目を踏まえ活動に取り組みました。

1. 地域住民が互いに支え合うネットワークづくり
2. 自然災害への身近な防災計画づくりと避難対策
3. 地域ぐるみの子育て支援の推進と組織づくり
4. 子供や高齢者を犯罪や交通事故から守る取り組みの強化
5. 自然環境と調和した住みよい環境づくり
6. 地域内商店街の活性化と魅力あるまちづくり

| 業務名            | 内容                                                                                                                                                                                                      | 実施日程                                                                                                    | 実施体制                                                          |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| ① 地域魅力化支援事業    | <p>・地域の魅力を向上させる事業を“地域魅力化事業”として地区内に公募しました。</p> <p>・実施団体への負担金を交付しました。</p> <p>・地区内に事業の告知・報告、取り組みへの参加の呼びかけなどを行いました。</p>  | <p>6 月・事業募集</p> <p>7 月・応募締切り</p> <p>・審査会<br/>(事業決定)</p> <p>10 月・負担金交付</p> <p>2 月・成果確認</p> <p>3 月・報告</p> | <p>協働</p> <p>・実施団体</p> <p>・「吉田の未来を考える会」準備会</p> <p>・センター職員</p> |
| ② 地域自治組織設立準備事業 | <p>・吉田地区振興センター運営委員会で協議し、当委員会を</p>                                                                                                                                                                       | <p>5 月・「吉田地区振興センター運営委員</p>                                                                              | <p>協働</p> <p>・「吉田の未来</p>                                      |

|  |                                                                                     |                                                                                   |                                                                                            |
|--|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>「みなし」の地域自治組織設立準備会として設立しました。</p> <p>準備会において吉田地区における“地域自治組織”についての検討・協議を行っています。</p> | <p>会」にて地域自治組織設立準備会について協議</p> <p>6月・地域自治組織設立準備会を設立</p> <p>＊6月～3月にかけて、計6回の会議を実施</p> | <p>を考える会」準備会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口拡大課</li> <li>・センター職員</li> </ul> |
|--|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|

## (2) 活動の成果及び効果

### ● 地域魅力化支援業務においては・・・

今年度は次の5つの事業に対し補助金が交付され実施団体によって事業がすすめられました。

| 事業名（団体名）                         | 事業の内容                                                                                                                                                                          | 成果と効果                                                                                                                                                          |
|----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 雪舟の町・観光案内とおもてなし事業<br>(雪舟の郷元気づけ隊) | <p>・雪舟の郷記念館・大喜庵周辺の環境美化、観光客への湯茶接待や観光案内。</p> <p>その取り組み事業の紹介や活動の様子を公民館便り、ホームページ等で地区住民へ告知。</p>  | <p>施設の環境維持や湯茶接待で喜んでいただき、雪舟の町としてのPR活動が出来ました。</p> <p>また、「雪舟の郷記念館」との共催行事も行い、観光地としての更なる宣伝効果や観光のリピーターの増加も見受けられました。</p> <p>地区住民の地元の“宝”としての意識向上にもつながっていると考えます。</p>    |
| 生き生きわいわいプログラム事業<br>(久城西自治会)      | <p>・地区住民への健康教室を開催し、高齢者の健康維持・交流の促進を図ると共に日常の状況を把握する。</p> <p>・救急法に関する基礎知識や技術の習得、折りたたみ式リヤカーの購入、防災の基礎的訓練の実施。</p> <p>事業の紹介や活動の様子を公民館便り、ホームページ等で地区住民へ告知。</p>                          | <p>健康教室を定期的に行うことにより、普段の高齢者の状況把握が出来、健康維持にも寄与し、自治会内の交流が活発になりました。</p> <p>防災に関しての取り組みを継続することにより、防災に関しての意識が向上しています。</p> <p>リヤカーの2台目の購入により、要援護者の救出力がアップするとみられます。</p> |
| スポーツ広場の整備・活用事業<br>(久城北自治会)       | <p>・広場、および周辺の環境整備・花壇の整備・桜の苗木植樹。</p> <p>・広場の活用方法の検討会。</p> <p>・草刈り機の購入、備えつけ。</p>                                                                                                 | <p>少しずつですが、広場の環境整備が出来つつあります。</p> <p>花壇・桜に関してはこれから結果が出てくると思います。</p> <p>作業を共同で実施したり、地区</p>                                                                       |

|                                               |                                                                                                                                   |                                                                                                     |
|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                               | <p>その取り組み事業の紹介や活動の様子を公民館便り、ホームページ等で地区住民へ告知。</p>  | <p>内で活用法などを協議することにより、地域住民に関わりが生まれつつあります。</p>                                                        |
| <p>古来伝承文化の掘り起し事業<br/>(NPO久栄会)</p>             | <p>櫛代賀姫神社及び久城地区に係る伝承文化の講演会及び研修会。<br/>それらの取り組み事業の紹介や活動の様子を公民館便り、ホームページ等で地区住民へ告知。</p>                                               | <p>久城地区に残る文化財の文化的価値の認識が少しずつではありますが、地区内外へと広がっています。<br/>講演会への参加者も増えて、住民が“地域の宝”として少しずつでも認識しつつあります。</p> |
| <p>吉田地区の地図データ作成準備事業<br/>(「吉田の未来を考える会」準備会)</p> | <p>地図太郎ソフト・準備会専用パソコンの購入。<br/>地区内の様々な情報を点・面・線での情報管理、視覚による情報発信への準備。</p>                                                             | <p>地区内の自治会ごとの区画管理や様々な防災面での活用、観光施設案内・表示などに役立てていけると考えられます。</p>                                        |

- 地域自治組織設立準備事業の業務においては  
地区振興センター運営委員会をみなしの“準備会”とすることで決定し、今年度は、会議のみの活動としました。
- ・“準備会” および地区内の自治会長さんへの益田市からの“地域自治組織”についての説明会等の設定。
- ・“準備会” 会議での検討議題や情報提供。
- ・各地区応援隊員との情報交換や地域づくりの為の研修参加、先進地視察等。



\* 地区内自治会長への地域自治組織ガイドブック(案)の説明会の様子



\* 「吉田の未来を考える会」準備会の会議の様子



\* 地域自治組織先進地視察の様子

## 活動の成果及び効果について

地域自治組織設立準備として、まずは、「吉田の未来を考える会」準備会としてのスタートが出来ました。

今年度の会議では、自治組織を設立するとすれば、地区のことをどのように考えていけば良いのか？という事を様々な立場からのより深い内容の意見交換が出来、吉田地区のことを考える“準備会”としての関わりが出来つつあると感じています。

市長、人口拡大課の施策・方向性の解釈は“準備会”のなかでも、まだまだ同じにはなっていないと感じますが、これから会議を進めていく中で地区としての在り方や取り組み方を検討し、進めるべき・進むべき方向が見えてくることと考えます。

## 4. 残された課題と今後の提案

魅力化事業に関しては吉田地区全体の魅力化という事には至らず、限られた地区での取り組みになっています。しかし、広範囲の吉田においては、そのような取り組みを少しずつ広げていくしかないのかもしれないとも感じています。

また、吉田地区のように広域で人口の多いところでは、“地域自治組織”のような、地区住民主体の自治運営をするために必要な、住民間の意見交換・目指すべきまちづくりを集約することはとても困難なことに思えます。しかし、まずは小さいエリアごとにでも話し合いの場を作っていくことや意見集約が出来ないかと思えます。

テーマや対象者を絞って状況把握していければと考えます。

さらに今年度に引き続き、地区住民・自治会・地区振興センター・行政が一体となるための話し合いの場づくりを進めていくべきと考えています。

昨今では自治会内での協議することさえも難しい状況ではありますが、いろいろな人が関わりあえる場づくりのための、よい方策を考えていくことが出来たらと思います。

## 5. 地域魅力化応援隊員の業務を振り返って

今年度から地域魅力化応援隊員としての吉田地区への配属1年目でした。益田市の最重要施策の一つである、人口拡大・定住促進へとつなげる地域魅力化プロジェクト事業の業務を行いました。

地域魅力化支援業務に関しては、昨年までの地域力アップ応援事業での業務と同じことだとの認識のもと、地域のために取り組みをされている団体への支援業務として取り組みました。

もう一つの、地域自治組織設立準備事業に関しては、“地域自治組織”というものの自体を自分の中での認識作業のまだ途中のような気がしています。

吉田という地区における、“地域自治組織”の必要性やどのような組織として成り立つのかも、「吉田の未来を考える会」準備会の会員の方々と共に協議、検討している現状です。地域づくりについても、昨年に引き続きいろいろな研修会や講演会・他地域の実践報告会等で勉強させてもらいながらの1年でした。

成果として何が？と考えると、“少しずつでも地区の方々とこれからの地区の在り方などについて話し合えることが出来ていること”だと、自分に言い聞かせています。

非常に重い業務だと感じながらの1年でした。

## 高津地区

### 地域魅力化応援隊員 氏名 堀江 栄二

平成 26 年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

#### 1. 配置部署

高津地区振興センター

#### 2. 配置年月

平成 26 年 4 月 1 日

#### 3. 活動の概要

##### (1) 活動の内容

地区振興センター

- ・地域自治組織設立準備事業
- ・高津地区地域づくり協議会を立ち上げ、構成員 12 名でスタートをした。
  - ・地域自治組織設立準備事業計画書を作成
  - ・地域づくり協議会全体会議開催 7/16、10/24、11/26、2/13日、
  - ・高津地区地域づくり協議会、地域づくり講演会の開催 3/9日



- ・地域魅力化事業補助金交付式（4 事業）・地域自治組織ガイドブック説明会
- ・地区連合自治会、各自治会年間行事实態調査提出、5 項目に分ける
- ・地区地域づくり協議会組織表作成・今後の取り組みについて  
地域づくり団体、空き家対策モデル事業実態調査 会議 3 回出席
- ・地域魅力化支援事業への支援（4 事業）
  - （柿本人麿公の偉業を顕彰する事業）
  - （高津やぶさめ継承事業）



（高津の歴史・文化・旧跡保存事業）



（高津花いっぱい事業）

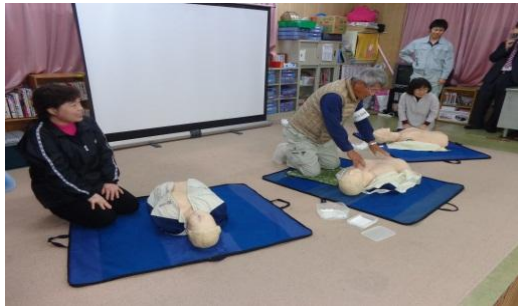


- ・センター運営委員会の開催 5/13、6/19、10/25、3/17日

## 連合自治会

- ・地域内の実態を把握するため、できる限り地域内の巡視
  - ・地域の安全、安心のための防災対策、伝統ある文化の継承、自治会と地域住民等と協議、話し合いの場にかかさず出るように努めてきた。
  - ・高津中学校生徒交通指導立ち合い 2回／月（いなり屋三差路）
- ・高津川の環境整備・高角橋土木遺産の活用推進事業
  - ・高津川河川敷の清掃を連合自治会として年1回実施。また須子、高津側には、須子町自治会による花壇を作り、環境整備に努めている。
- ・災害時緊急時避難訓練対応事業
  - ・高津地区連合自治会を5ブロックに分け、毎年順番で避難訓練を実施。今年度は浜ブロックで避難訓練、救助訓練の予定が避難訓練は雨で中止でしたが、救助訓練では各自治会より多くの参加者があり、心臓マッサージ・AED、危機管理課による現状説明、土砂災害によるビデオ鑑賞等の体験を実施。

### 浜ブロック救助訓練



- ・益田まつり（おどり子で参加）
- ・須子まつり（おどり子で参加、後片づけ手伝い）



- ・万葉まつり  
（会場準備、後片づけ手伝い）
- ・萩・石見空港マラソン大会  
（走路員説明会、走路員配置決め）



- ・その他地域振興全般に関すること
  - ・高津小学校教育協働化事業（4年生川探検、間歩の口探検・3年生しめ縄作り）
  - ・高津小学校ボランティアハウスの応援（8月12日）（アユつかみ取り）



## 公民館

- ・公民館だより作成、印刷、配布（3，450部／月）
- ・講座（木工教室3回）（料理教室 3回）（しめ縄づくり1回）



- ・高津地区敬老会 9月15日 サンパレス益田（参加者397名）



- ・高津地区市民体育大会 11月2日（雨で中止）  
競技内容についての検討委員会 1回 実行委員会の開催 2回  
本部役委員会開催 1回 備品、道具の準備
- ・文化展 11月15，16日  
・担当講座紹介分文書作成・展示品の展示



## 健康づくり

- ・万葉ウォーキング大会 10月5日 ・3月1日万葉、人麿クイズウォーキング大会



- ・企画運営等全般に関すること  
・消防後援会、理事会の開催運営に関すること

## (2) 活動の成果及び効果

- ・地域魅力化支援事業を進めてきました、今年度は4事業の支援を行いました、それぞれが成果を上げてきたと思っている。「益田市柿本人麿公の偉業を顕彰する事業」では郷土の誇りである人麿公の偉業を顕彰し人麿公に纏わる、諸事業を展開、かるた読み手育成講座、講演会の開催、ひとまるさんかるた大会、また、万葉・人麿クイズウォーキング大会開催。各行事を実施し交流人口拡大に繋がっていると思っている。「高津やぶさめ継承事業」地域に根差した古来伝統行事として「やぶさめ」を高津地域だけでなく、益田市の一大行事として定着するよう継承している。本年度より市内全体より緒役を募集し2名の応募があり諸役に参加した。今後も地域内、外より多くの参加者を募集し交流人口の拡大に努めて行きたい。「高津の歴史・文化・旧跡保存事業」では月1回地元に住んでいる方々に高津の昔の話を語ってもらい高津地図に記入し高津地図を作成。また、高津地域住民全体に「高津十景」募集案内文書を配布し“高津の魅力”を掘り起こしている。現在まとめ中、今後もHPを開設し高津の歴史・文化を全国に発信し交流人口の拡大に繋げたい。
- ・地域自治組織設立準備事業では地区地域づくり協議会を立ち上げ、構成員12名でスタートした。地域自治組織設立準備計画を立て現在進めて来ているが、当初の計画より遅れて進んでいる。現在までに設立準備計画、地域自治組織ガイドブック説明会、連合自治会、各自治会の年間行事計画による高津地区の実態を5項目に分け仕組みづくりを把握。3月には地域づくり講演会を開催する。今後は構成員と問題点を絞って何を先に実施するかを話し合いながら進めて行きたいと思っている。

## 4. 残された課題と今後の提案

地域魅力化支援事業「益田市柿本人麿公の偉業を顕彰する事業」「高津やぶさめ継承事業」「高津の歴史、文化、旧跡保存事業」「高津花いっぱい事業」の4事業では素晴らしい歴史と文化と伝統行事を有しながら、それを活かしてきていないところがある。今後は全国に発信し交流人口拡大に繋がる取組を実施して行きたい。また、高津地区も高齢化が急速に進み、交通弱者が出て来ている。これからは高齢者が買い物、通院など生活しやすいまちづくりを進めて行く必要があると思う。

## 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

- ・地域魅力化応援隊員になって1年目が終わろうとしているが、地域魅力化支援事業を主に支援してきた。支援事業はかなりの成果を上げて来たと思っている。
- ・地域自治組織設立準備事業では当初の計画より遅れているが、今後は構成員と問題点を絞って何を先に実施するかを話し合いながら進めて行きたい。高津地区は人口も多く地区振興センターの利用者が多い中、多種多様な業務があり公民館、地区振興センター、地域魅力化応援隊員として地域の行事・企画・運営に携わってきた。今後も高津地区住民と協働で地域の課題を取り上げながら地域づくりに貢献できるように活動をして行きたいと思っている。

地域魅力化応援隊員 氏名 大畑 明子

平成 26 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

安田地区振興センター

2. 配置年月

平成 26 年 4 月 1 日～（1 年目）

3. 活動の概要

（1）活動の内容

地域自治組織設立支援事業

前年度の『地域力アップ事業』が廃止となり、新たに『地域魅力化プロジェクト事業』として人口拡大を目標に、地域問題を解決し、望ましい地域の未来を住民主体で考え、運営をしていく『地域自治組織』の設立についての説明会及び研修会を行い、事業内容について住民へ周知を図る活動をおこなった。



5 月 20 日(火) 地域づくり協議会総会  
参加者 25 名



7 月 15 日(火) 地域自治組織設立準備事業会議  
参加者 17 名



10 月 8 日(水) 地域自治組織設立準備事業研修会  
『定住を受けとめる地域のかたち』  
講師 藤山 浩 先生  
参加者 38 名



11 月 19 日(水) 地域自治組織ガイドブック説明会  
市役所人口拡大課による説明  
参加者 26 名

○安田地区で農産物、手作り作品などの販売を通して農産物の生産、加工、独自開発などを行い、地域住民の生産意欲を高めるとともに地域の活性化を図る。  
○若い世代が気軽に参加できるイベントにリニューアルしていき、地域の縦横の繋がりを強化していく。  
○手作りを楽しむ講習会などを通して、子育て世代が他の家庭との交流や情報交換できる場を提供し、楽しく子育てできる環境をつくる。

# フリーマーケット『安市』開催

|     |           |     |      |
|-----|-----------|-----|------|
| 第1回 | 6月22日(日)  | 来場者 | 350名 |
| 第2回 | 8月31日(日)  | 〃   | 450名 |
| 第3回 | 12月21日(日) | 〃   | 400名 |



## 手作り講習会(託児付き)

|           |           |         |     |     |
|-----------|-----------|---------|-----|-----|
| 10月20日(月) | お菓子作り教室   | 篠田 尚子先生 | 参加者 | 12名 |
| 11月19日(水) | キャンドル教室   | 城市 泰紀先生 | 〃   | 6名  |
| 12月1日(月)  | クラフトテープ教室 | 定富 優子先生 | 〃   | 15名 |
| 1月19日(月)  | お菓子作り教室   | 篠田 尚子先生 | 〃   | 12名 |
| 2月10日(火)  | レザークラフト教室 | 見国 洋二先生 | 〃   | 8名  |



お菓子作り教室



キャンドル教室



クラフトテープ教室



レザークラフト教室

|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>地域環境整備事業</p>  | <p>○地域の環境美化をすすめ、住民が明るく楽しく生活できる場を提供する。<br/>○前年度までは環境整備のみの活動だったが、今年度からは子供たちの登下校時に地区内の花壇の維持管理活動をすることにより、地域の目を光らせて防犯予防対策に繋げていく。</p> <p>遠田川河口付近の雑草の刈り払い<br/> 1回目 6月6日(金)<br/> 2回目 6月11日(水)<br/> 3回目 7月15日(火)</p> <p>遠田川河口付近の海洋漂流物の除去<br/> 1回目 7月23日(水)<br/> 2回目 8月15日(金)<br/> 3回目 8月20日(水)<br/> 4回目 1月8日(木)<br/> 5回目 1月13日(火)</p> <p>J R 津田駅前の花壇の整備<br/> 4月～3月まで1年間</p>   |
| <p>史跡・遺跡整備事業</p> | <p>○安田地区の先駆者が年月をかけて旧山陰道整備を行い歴史の伝承事業を地域への愛着をもって取り組んできた実績を保存し、周知することで地域の人に安田人としての誇りを持たせる。<br/>○地域の歴史・文化を地図太郎ソフトを使用し、よりわかりやすく整理し、継承者となる可能性の高い子供たちに伝えていく。</p> <p>旧山陰道草刈り<br/> 上遠田地区・開パイ・寺町・津田・木部塚の3地区を分担し一斉に作業。</p> <p>1回目 7月27日(日) 参加者 35名<br/> 2回目 10月5日(日)     "     34名</p>  <p>GIS 史跡・遺跡マップづくり<br/> 地図太郎 P L U S ・航空写真購入。</p>                                                                                                                       |

## (2) 活動の成果及び効果

### 地域自治組織設立支援事業

今年度の活動は主に『地域自治組織設立支援事業』の説明会や研修会を行い、地域住民に事業内容の理解を得ることからのスタートとなった。

説明会では人口拡大課も招き、組織をつくる上でリーダーシップをとれる人が本当にいるのか、大きなプロジェクトなので末端の住民まで意識が浸透しなければ上手く進まないのではないか、など多数の意見交換が行われた。

それでもまだ、全ての住民に対しての周知は困難であり、地区の中で中心的役割を担っている方たちへの周知活動にしか至っていない。

## 地域魅力化事業

- ①フリーマーケット事業では、フリーマーケット『安市』を年3回、6月と8月と12月におこなった。前年度からの継続事業の為、今年度は若い世代が参加しやすいイベントにリニューアルすることを目標に、手作りの活動をしているグループに声をかけ、Café や古着マルシェなど新規にブースを設けて開催をおこなった。フリーマーケット事業の一環として、手作り講習会を託児つきで企画し、子育て世代の参加を呼び掛けた。手作り講習会後にはプチ座談会の場を設け、気軽な情報交換会などをおこなった。それらの成果もあったか、フリーマーケット『安市』の来場者の年齢層が低くなった様に見受けられ、多世代の交流の場にもなっている。
- ②地域環境整備事業では、遠田川河川敷内に繁茂しているヨシの刈り払い作業や遠田川河口付近の漂着ゴミの清掃、JR 津田駅前の花壇の整備を行った。この事業も前年度からの継続事業である。清掃作業後の集積状況を見ると、不法投棄の粗大ゴミが数多くみられ、年複数回の清掃作業の必要性を感じる結果となった。
- ③史跡・遺跡整備事業でも旧山陰道の草刈りを年2回、7月と10月におこなった。年度初めの総会で事業の継続について議論し、これまで取り組んできた実績を残さなければまた一からの作業となる為、保護しなければとの声が多く上がり継続となった。
- ④GIS 史跡・遺跡マップづくりは、地図太郎 PLUS・航空写真の購入はしたが、まだ活動には至っていない。

## 4. 残された課題と今後の提案

今年度は地域の中心で活動している方たちへ向けての『地域魅力化プロジェクト』の周知活動となった。今後は全ての住民に等しく理解してもらえるようなしっかりとした周知活動をしていかなければならない。

このままの状況が続けば、地域振興を主体的に取り組む組織・団体への加入者の減少や実践者の高齢化により、組織・団体の存続が危ぶまれる為、その点を考慮して、徐々に子育て世代や女性など様々な立場の住民の参画も視野に入れ、住民アンケートやワークショップなどを取り入れながら、より多くの住民の意見を反映していき、次世代の地域リーダーとなる後継者の育成に繋げていかなければならないと考えられる。

## 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

応援隊員として1年、まず地域の方や事を知ることからのスタートとなりました。勉強不足を反省しきりの頼り無い応援隊員でしたが、地域の方や公民館職員や他地域の応援隊員に支えられ助けられ、人間関係の大事さを実感した感謝の1年でした。安田地区では、いろいろな事業が実施されており、現在中心となって活動されている方たちの行動力と志の高さに頭が下がりました。この素晴らしい精神が若い世代にも引き継がれていき、よりよい安田地区になっていくことを願っております。

地域魅力化応援隊員 氏名 鶴頭 定廣

平成 26 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

鎌手地区振興センター

2. 配置年月日

平成 26 年 7 月から

3. 活動概要

① 活動の内容

- ア、「ふるさとおこし」唐音すいせん公園交流拡大事業
- イ、第 14 回水仙の里かまてウォーク支援事業
- ウ、第 17 回ふるさと花火大会支援事業
- エ、鳥獣被害防止対策事業
- オ、空き地・空き家対策事業
- カ、全地区民アンケートの実施

② 活動の成果

- ア、「ふるさとおこし」唐音すいせん公園交流拡大事業  
水仙公園草刈回転歯 77 枚購入分として「鎌手ふるさとおこし推進協議会」へ応援隊の負担金として補助。草刈隊の延べ人数 100 名
  - 平成 26 年 7 月 5.6.12.13 日
  - 平成 26 年 9 月 15.20.23 日 実施＝7 回(日)3ha の雑草が無くなり 200 万に増えた日本水仙の球根は 12 月上旬から順調に咲き始めた矢先の 12 月下旬に全国に猛威を振るった爆弾低気圧による塩害で約 2 割程度が枯れてしまうアクシデントもあったが残った花芽と共に翌年の 1 月下旬頃には満開となり多くの観光客の方々の心の癒しに花を添えた。



#### イ、第14回水仙の里かまてウォーク支援事業

平成27年1月18日（日）実施



当日は好天に恵まれ春を思わせるぽかぽか陽気の中、益田市の内外から450名の皆さんが鎌手公民館から唐音公園までの全長4kmのウォークを楽しんだ。

日本海の潮の香りと水仙の花の香りが公園一杯に広がり、入りきれない程の人々で水仙公園の展望台が一年に一度この日だけは溢れかえります。ウォークを楽しんだ後はプレゼントの水仙を片手に500人分用意した猪なべも振舞い参加者の方々に楽しんでいただいた。

#### ウ、第17回ふるさと花火大会支援事業

・「7月26日（土）」実施

応援隊の負担金としてふるさと花火大会実行委員会に対して補助。

陰暦の十七日の夜に行われる「漁師の祭」十七夜祭に合わせて同時開催している花火大会でありメイン会場である漁協建物の安全が確保できず昨年は花火大会を中止としたが地元地区民だけでなく近隣地域の方も楽しみにされているイベントであり鎌手を離れている家族もこの日には帰省する。



益田市水郷際の花火に比較すれば小規模の花火大会ではあるが十七夜の月を「たちまち月」とも言う語源に相応しく「まだかまだか」とみんなが立って待つ程のイベントとして要望も強く今年は盛大に開催された。2000発の花火が夜空に舞う美しさに3000人の観客からの歓声が大浜の港に木魂した。

#### エ、鳥獣被害防止対策事業

在来種鳥獣捕獲免許試験に係る費用の一部を各自治会一名に4000円助成。

- ・外来種（アライグマ、ヌートリア）駆除講習会及び駆除許可証の発行「39名」
- ・在来種（猪、タヌキ、アナグマ）捕獲免許対策「受験者4名」全員合格

地域内で最も被害件数が多いのは猪による作物全滅被害だ。高齢者の楽しみの一つである野菜作りは半年も掛けて育ててきたのに収穫間近になって、たった一晩で跡形もなくなってしまった。もう何も作る気がしなくなった。との声を何人もの方から聞いていた。

外来種の駆除講習会に加えて在来種の捕獲免許を取得して鎌手地区民の救世主に名乗りを上げた5自治会に対して受験費用の一部として助成金し今回は4名が合格した。なお、次の試験には25名が希望しており頼もしい狩人が誕生する。

#### オ、空き地・空き家対策事業

・空き家(6軒)及び空き家予定(2軒)をバンク登録に向けた訪問対話を行い、相談のあった空き家所有者の希望を充足できるよう人口拡大課「空き家バンク担当者」と連携を図り実施した。

次年度においても事業を継続して実施する予定である。

#### カ、全地区民アンケートの実施

集約率＝60.07%

平成27年8月11日の地域組織設立準備総会及び第一回鎌手地域魅力化推進協議会の場に於いて実施内容、実施方法の概要を提案し3ヵ月後の11月末を締め切りとして実施した。

集約率は60.7%であったが自由記入欄に976件の貴重な意見、要望等が寄せられ質問への回答以外に地区住民の方が日頃、感じておられる思いが集約された。

魅力化事業で実施できるもの、大きな予算を伴う事案であり国・県の事業で実施すべきものもあるが地域単位で実行できるものについては次年度以降の魅力化計画に反映して行くこととする

### 4. 残された課題と今後の提案

#### ①残された課題

ア 鳥獣被害防止対策は特定外来生物狩猟講習会を開催し39名の受講者があり、許可申請した38名に益田市から狩猟許可証が交付されヌートリアは2件の捕獲報告はされているが27年1月末現在アライグマの捕獲報告はされていない。

なお、許可証の有効期限が9月8日までとなっており次年度に於いても講習会を実施する。

有害鳥獣捕獲免許については4名に対して島根県知事から許可証が交付され次年度においては25名の取得希望者があり受験対策の取組を行うこととする。

イ 空き地・空き家対策計画では遠方の持ち主に対して郵送（特定記録郵便）を予定したが直接面接、電話による親戚対応等が殆どであり郵送による切手使用は不要であった。計画した補助金20,000円（切手購入費）は未実施として返納する。補助金は不要であるが引き続き空き家空き地対策

は魅力化施策として次年度以降も継続して取り組むこととする。

## ②今後の提案

今年度実施した全地区民アンケートで集約した意見、要望（９７６件）の内容を踏まえ実施可能な案件について鎌手地域魅力化推進協議会で協議の上、具体的な提案を行う。

## ５．地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

年度途中からの任務であったが地域の魅力化向上に向けた取り組みを行うことに魅力を感じている。また、このことが人口拡大に結びつき将来的に地域全体が活性化することが一番の望みでもある。

人口が増える事業を展開するにしても僅かな補助金で沢山の魅力的な取り組みを行うには地区振興センターも地域住民もボランティア精神が無ければ推進が図れない。

施策については地域の方が困っていた鳥獣対策の第一歩と言える「外来生物（３８名）、有害鳥獣（４名）」に狩猟許可証が交付されたことは高齢者の楽しみと共に地方での生活に不可欠な露地野菜の栽培に諦めかけていた庭先耕作に希望を与えた。

魅力化事業に取り組むに当たって当地域の住民の方が望んでいるもの、困っていることを把握した上で事業推進を図るべく全地区民アンケートを実施した。

集約率は６０．０７％と低率ではあったが地域の状況を集約できたことと日常生活の中で不便を感じていることや希望、要望を把握できたことは次年度以降の魅力化事業を地域住民のための事業として実施する取り組みとしては有用であった。

私たち応援隊の任務の中に「地域自治組織の設立事業」がある。

地域自治組織設立準備総会は平成２６年８月１１日に実施済であるが自治組織の運営が地域住民にとって果たしてメリットとして感じていただけるものがあるのかどうか、ただの行政改革の一つとして行おうとしているのであれば将来的な地域像も提案し地域住民の方々に理解を求め実施すべきである。

仮にそうでないなら実施に当たってはこの新組織が地域住民の方が生活する上に有意であって不便を生じさせないとの約束をすべきである。

地域魅力化応援隊員 氏名 川辺 雅秀

平成 26 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

種地区振興センター

2. 配置年月日

平成 26 年 5 月から

3. 活動の概要

①活動の内容

種地区は戸数 100 戸、人口 300 人、高齢化率 40%を超える公民館単位である。

種むらづくり推進協議会を母体とする自治組織準備会は既に存在し、住民の大多数が傘下のいずれかの構成要素に所属しているため、自治組織についてはガイドブックの決定稿が示され、議会等で疑問点が解消されれば住民の意思決定は容易であると考えている。

自治組織は手段であって目的ではなく、自治組織結成後を見据え、住民の共同参画による魅力ある地域づくりが提案できればという思いで活動を行った。

環境的には弥栄村野地地区の里山風景であり、事業としては里山資源の活用と地域外との交流を目標とし、以下の活動を行うことで住民にむらづくりを提案した。

(1) フェイスブックによる情報発信

地区外との交流を図る手段として、5月にフェイスブックページを開設し、地区行事やまなびや工房の産品紹介、地区活性化へ向けての取り組みを発信した。2月12日現在、70回投稿している。

(2) 未耕作地対策

地区内の未耕作地を借り受け、自分の楽しみとして休日を利用して耕作し、「種スコープ菜園見本園」として、看板を設置した。

他地域からの耕作希望者があれば、空農地を仲介する試みを行っている。

(3) 炭焼窯の復活と薪炭生産

地区内に残存していた炭窯を借り受け、地区住民9名で炭焼倶楽部を発足させて炭焼を行っている（活動した内容を全戸に報告（別添資料参照））。

炭焼材に適さない部分についても、ストーブ用の薪販売やシイタケのほだ木に利用出来ることから、裏山を伐採することで獣害対策を含め多角的な効果が期待出来、販路確保による継続性を探る試みを行っている。

(4) 平家ヶ嶽登山道整備と里山縦走路新設

荒廃が著しい里山の山道を、歩いてもらうことで保存する試みとして、平家ヶ

嶽の登山道を整備することとして、山林所有者の伐採了解を取りつけ3月中にボランティアにより整備を行うこととしている。

## ②活動の成果及び効果

定められた年間の自治会行事への住民参画から、住民が自発的に「むらおこし」を考える「種火作り」を意識して活動したつもりであった。

菜園の申し込みについては現在のところ反応はないが、住民からの反応は好意的である。

県道沿いにも荒れた未耕作地が多い中で、「種スコープ菜園見本園」として今後も看板を掲げ、家庭菜園を耕作する楽しさを種地区通過者に示していきたい。

他地域との交流のきっかけとなるよう、朽ちた看板の作り直し、自転車レースのコース看板の設置や、サイクリストに対するトイレ解放、花壇の新設等、住民の身近なところで集落環境の整備を行った。

自転車を例にとると、種地区にとっては1回のレース会場になることよりも、休日ごとに種を走るサイクリストとの交流こそ意義があるとの思いから、トイレ解放とコース看板を設置した。

チャレンジャーズステージにしても、種地区として市民の自転車レースへの関心を喚起するため、即フェイスブックでレース写真を発信している。

炭焼については、9名の住民参加があり、里山の整備を念頭に置いた活動を目指し、現在2回目の炭焼を実行中で、3月までに3回目までは行う予定でいるが、今秋以降続けられるかどうかは不透明である。

1回目の炭はモニターに無償配布した結果、茶道の先生等からの反応もあり、茶炭製造等の収益性を確保しながら継続の道を探っている。

平家ヶ嶽登山道については、3月末に、自治会組織のボランティア会の活動として整備を行うこととしているが、広く市民に参加を呼びかけ、市民が里山歩きを楽しむ交流の場となることを目標としている。

山林所有者の伐採同意とコース選定は終了し、コース整備の目途は立っている。

## 4. 残された課題と今後の提案

私個人の思いつきで、住民の共同参画による取り組みを提案したが、炭焼の参加者9名にしても戸数100戸の内の9名であり、10%弱の家庭が参加したことになる。

これ以外に何をと考える時、1,000人2,000人規模の公民館単位化と比べ、マンパワーの点で極めて困難である。

各公民館単位で、独自に自治組織の立ち上げ方針を示されているが、一旦設立されれば相互に事業活動の囲い込みや排他的風潮が生じる可能性があると考ええる。

小さな公民館単位では、隣接あるいは広域の相互協力による連携を見据えて、規約や組織のすり合わせが必要と考える。

## 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

楽しい地域でなければ他所から人は来ない、自分が面白いと感じなければ人も楽しくない。

自分自身平均的な日本人と思っているので、自分が楽しいと思っていることをやらせて貰いました。

結果はついてきていないが、地域に対し「小さな提案」はしたと思っている。

### 活動写真



種スコップ菜園見本園



あじさい園看板



自転車コース、トイレ看板



炭焼と作業小屋作り



平家ヶ嶽山頂、試験伐採後の眺望

## ボランティア募集

### 里山登山道 縦走路整備

里山歩き・ウオーキングの愛好者、木こりの腕試しをしたい人、  
益田の絶景を自分で発掘して楽しみたい人、写真愛好家、  
里山環境の保全に関心のある方・・・一緒に楽しみましょう！

作業内容

- 下種野川下地区、平家ヶ嶽登山口から頂上、及び烏帽子山への縦走路の整備
- 平家ヶ嶽山頂部の伐採・整備

◎ 日時 3月28日(土) 午前8時30分～正午ころまで  
◎ 集合場所 種地区振興センター  
◎ 持参していただくもの かま、なた、のこぎり、チェーンソー等 手ぶらも可能！  
◎ 昼食 ボランティア会で準備します。(無料)  
◎ 服装等 長靴か登山靴、作業の出る服装  
◎ 主催 種地区ボランティア会  
◎ 参加申し込み 種地区振興センター ☎27-1008

平家ヶ嶽298m 烏帽子山328m



高津次郎が川を渡り、海軍に、おのれをひっくり返した(武士の烏帽子)の山が烏帽子。その縁起のよい山が平家です。



平家ヶ嶽から高津持石方向の眺望

作業により、登山道の展望所や山頂からこの風景が身近なものとなります。歩いてしか得られない絶景です。  
里山を人が歩けば、道は整えられていきます。  
今、里山は人を寄せ付けない状態になり、市街地でも数分歩くと出てくる状況になり、山は荒れかかっています。  
村人が山に近い薪を取りに入った山道に、里山歩きを楽しんでほしいというプロジェクトです。  
枯れ木の除去や竹の伐採といった軽作業だけでもOKです。  
チェーンソーの脱着機なら、大木を何本でも切ることが出来ます。  
ボランティア保険は、こちらで付きますが、危険な作業は行いません。

補注: 種地区では有志会による、火葬用の炭やストーブ用の薪の生産を行っています。  
地元の薪や炭を使ってみたい方、いちど種公民館まで連絡してみてください。  
里山資源の活用により、少しでも地元の里山を再生したいという試みです。

住民各位

種炭焼苦楽部（仮称）

連絡担当 川辺

### 炭焼苦楽部活動報告

ひとまるビジョン等でご承知のとおり、第 1 回目の窯出しを行いましたのでその様子についてお知らせします。

#### 1 第 1 回炭焼について

1 月 31 日に窯出しを行いました。

初心者と久しぶりに焼く経験者の 9 名が十分に楽しむことが出来ました。2 回目からは、杉山さんも参加される予定です。

技術の継承と参加者がまず楽しむことを主目的に始めた企画ですが、その奥には当然里山を利活用するシステム構築の可能性を探る意図があります。

出来上がった炭については、今後の市場性を判断するために、応募された 13 名に無料でモニター提供し、アンケート結果が返りつつある状況です。

3 月末までにあと 2 回炭焼を行う予定です。



#### 2 炭焼の方向性について

モニターの中にお茶の先生がおられ、茶炭を焼いて欲しいと言われました。

茶炭は技術的に困難ではありますがやってみる価値があります。

一般炭だけではなく、茶炭が製造出来れば収益性と継続性が確保出来ると思い、クヌギを試験焼きすることとしています。

#### 3 ストープ用の薪製造について

薪ストーブがブームになり、新築時に導入する家が増えています。

美都森林では、薪の製造工場を 5 年位前から動かしています。

ストーブにはナラ、クヌギ、カシ材が好まれます。

値段は、順天堂ではナラの薪を 1 束 600 円 で販売しています。

写真のとおり、細割したものです。ストーブの利用者は、趣味の世界ですので、製材屑や貧乏くさい枝木より、太い薪を燃やしたいと思っています。

工場では、画一的などんなストーブでも燃やせるサイズを製造して市場にのせますが、顧客の要望に合致した太さ・長さの薪を製造すれば、商機は見いだせると思っています。

2 月 15 日二条で行われた薪割交流会に渡邊義夫さんと参加して、ストーブ所有者やストーブ販売業者との交流を通じ「種で出来ると」を感じています。

炭材の切り出しに併せ、現在サンプル用の薪を準備中です。

二条でも薪製造に向けて動き出すようです。



#### 4 森林資源活用の現状

三隅火電では石炭に混ぜて木材チップを燃やし、伸和産業や安野産業がチップを納めています。

江津にバイオマス発電所が出来、今後木材の需要が増えていくものと思われます。

伸和産業では、一日 100 トン処理できる破砕機をファクトリーパークに設置しています。

その結果、これまでは山林に放置していた根元の丸太や葉のついた枝に至るまで持ち帰っていますが、森林所有者の取り分が多くなったとは聞いていません。

#### 5 種地区の山林について

バイオマス用の伐採は大規模で、搬出路や重機の利用が前提となり、急峻で搬出路のない種の森林ではバイオマス用として伐採出来るところは限定されます。

残念ながら、荒れたままの山で残っていく可能性が強いと思われます。

#### 6 皆様のご協力をお願いします。

今後の炭焼や薪製造の材料については、伐り出しが容易な山裾の木から伐採したいと考えています。

山裾を伐ることは、獣との緩衝帯となって獣害の軽減が期待出来、また里山の美観を創り出すことにもつながります。

一石〇鳥の取らぬ狸の皮算用と笑われそうですが、人が入れない状態にまで荒れた山を活用するとともに、むらおこしにも繋がる活動と思いますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

苦楽部では、体を動かす生産部員の他に、サポートしていただける方も会員として加入できる仕組みを考慮中です。

苦楽部では途中参加大歓迎です。

公民館に、一回目の炭を置いていますので是非一度出来栄えを見てやってください。

#### 7 その他の試み

炭焼苦楽部の活動とは別に、平家ヶ嶽頂上に至る山道の整備と、平家から烏帽子に至る稜線に縦走路を作る計画を進めています。

山頂部の山林を所有する川下の佐々木秀二さんや、赤雁の山本さんの承諾はいただいています。

現在は木が大きくなり海が見えない状態ですが、山頂部を伐採すれば眺望は素晴らしく、登る価値の十分ある山です。

里山歩きやウォーキングの愛好者が登ることにより、道は踏み固められて残っていきます。

立ち入ることが出来なくなった荒れた山を、よみがえらせる試みの一つとして進めています。

「節句には重箱を持って平家に登ろう」、昔の風習がよみがえれば楽しいと思います。

## 地域魅力化応援隊員 氏名 堀江宗仁

平成 26 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

## 1. 配置部署

北仙道地区振興センター

## 2. 配置年月

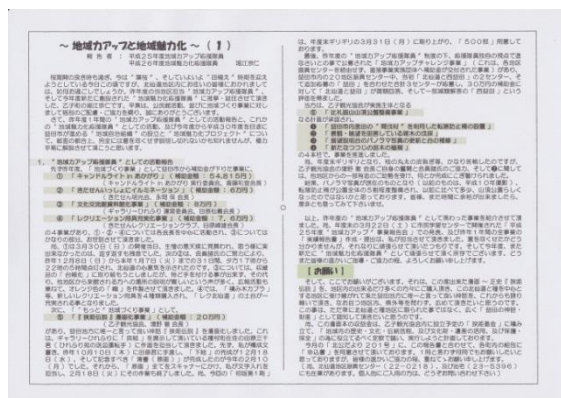
平成 26 年 4 月 1 日から

## 3. 活動の概要

## ①活動の内容

地域魅力化応援隊員 1 年目の本年は、大別すると「地域自治組織設立支援業務」と「地域魅力化業務」の 2 本柱であった。

先ず年度初めの 4 月末、昨年度の地域力アップ応援隊員時の活動報告と今年度から始まる「地域自治組織」設立についての説明を兼ねた広報を、毎月末配付の「北公だより」に添付して当地区内のおよそ 180 数世帯全てに配付した。



(平成 26 年 4 月末発行・「北公だより」201 号、A3・2 枚)

その上で 1 本目の「地域自治組織設立支援業務」だが、平成 26 年 5 月 9 日の当地区「各種団体長会議」、5 月 23 日の「地区振興センター（公民館）運営委員会」両会議の席上で、先ずは地区内の役職を持っておられる方々にこの「地域自治組織」についての説明を行なった。

そうした中、「運営委員会」に先立つ 5 月中旬、島根県中山間地域研究センターの藤山 浩 研究統括監より「北仙道地区で、二条地区で実施した様な『地元学』をやってみませんか」との打診があり、ふたつ返事でお引き受けした。それから、5 月 19 日・6 月 3 日・6 月 16 日と 3 回の打ち合わせ会議（藤山先生・檜谷スタッフ・人口拡大課）を経て、実施日は 6 月 23 日（月）と決まり、私も各種準備に邁進することとなる。

そして当日、ひとまるビジョンも密着取材に来館、天候にも恵まれて地区振興センター職員 4 名、地域魅力化応援隊員 11 名、中山間地域研究センタースタッフ 8 名、市職員 7 名、地元住民 22 名、慶應義塾大学 駒村康平教授他 2 名の総計 55 名が参加して、無事『地元学 研修会 in 北仙道』が開催された。

コースは 3 つに分け、午前中参加者個々に希望するコースを堪能してもらい、午後

からのワークショップで発表をまとめ、最後プレゼンを行なう。その中でも特に「レク北仙道を実体験する！」のC班は、まとめ・プレゼン共に出色の出来であった。



在りし日の田原松義氏と奥さん、牛達！（A班）



渡邊哲朗案内人の説明を聞く（B班）



レク北仙道の真髄・ユニカール（C班）



手作りの昼食は大好評！



ワークショップは、皆さん真剣！



出色の出来だったC班のプレゼン！

尚、7月末の「北公だより」には、地元学当日の記事を掲載し、参加されていない地区民へもこの事業の内容を知ってもらい、意義を強調した次第である。



そして、1本目の本丸「北仙道地区地域自治組織設立準備会議」の設立総会が7月13日（日）開催され、4地区から4名ずつ選出された（自治会長含む）計16名の委員さんによってこれからの流れ・規約の承認等、「地域自治組織」設立

に向けて当地区も船出したのである。

2本目の「地域魅力化業務」は、「キャンドルライト in あかがり&かかしコンテスト」(同実行委員会主催)への支援と、準備会議が独自で行う「北仙道地区基礎カルテ作成事業」の二つである。

前者は8月16日(土)に開催され、参加者はおよそ200名ほどが集まり、本年初開催の「かかしコンテスト」が好評で、成功裏に終了した。尚、「UIターン・二地域居住」等の傾向を探るべく「あぜ道アンケート」を考案・実施し、その集計結果は、8月末の「北公だより」に添付して地区内全戸に配付した。



最高の出来！武蔵坊弁慶



「あぜ道アンケート」実施中！

これが「あぜ道アンケート」です！



暗くなって、キャンドル最高！

後者は、これから準備会議が「地域自治組織」を設立して行く上で活用出来ると思われる「GIS」と「航空写真」、そして「パソコン」・「プリンター」・「デジタルカメラ」等の機器を購入し、その制作物を知的・活用財産とすると共に将来的に「地域自治組織」の財産とする事を目途に計画した。尚、前2者は平成26年12月4日に購入済み、後3者は本年度中(3月)に購入する。

その上で、「GIS」技術の習得に努めるべく島根県中山間地域研究センターの主催する「GIS活用連続講座」に、平成26年7月4日・8月1日・9月2日・10月3日・12月5日(シンポジウム兼ねる)の5回全てに参加し、又、徳屋(吉田)・岡崎(豊川)・大畑(安田)・私の4応援隊員と谷本(二条)嘱託職員の5名で自主研修を、平成26年11月12日・12月15日・平成27年1月15日・2月25日の4回、行った。

その他、平成26年11月21日の「美濃地の交通を考える会」、11月27日の「平成26年度 益田市連合自治会長研修会」、12月9日の「平成26年度 島根県中山間地域研究センター 研究フォーラム ― 西部地区 ―」、12月19日の「山口市仁保地区先進地視察調査」、平成27年2月14日の「人づくり・地域づ

くりフォーラム in 山口」等にも参加し、多方面の「スキルアップ」を図るべく研修した次第である。

## ②活動の成果及び効果

4月末の広報は、今までは補助金を受けた事業等を実施すれど、広く地区民全体に対して事後の報告・総括等は一切して来なかったという事に鑑み、行ったものである。少なくとも読んで頂いた方には、これまでの補助金の「流れ」、「何に活用されたか」、「その後の効果は」等を感じ取って頂けたのではなかろうか。

次の「地元学」は、「他所からの視点」でその地域の良さを改めて掘り起こしてもらい、平素は安穏と暮らしている地元住民に「新鮮な気付き」を提供してもらったという点で、「地域自治組織」設立の導入部分で行えた素晴らしい事業だったと思っている。

「北仙道地区地域自治組織設立準備会議」の設立総会を経て「GIS」活動に入った訳だが、これは思った以上に高等であり、今年度の段階ではその「成果及び効果」は、端緒に着けたという事以外では特にない。

## 4. 残された課題と今後の提案

今年度「地域自治組織設立支援業務」の方では、「戸別アンケート」と「先進地視察調査」を計画していた。しかし、当センターの波田センター長が8月の盆明けに病氣入院され10月半ばに退院されたのだが、今度は同月末に田原松義連合自治会長が逝去されと、当地区内の「2大推進役」の不在が響き、計画通りの活動が叶わなかった。

言い訳になるかも知れないが、その後も波田センター長は入退院を繰り返され、2月中旬からは自宅療養に入られ、完全不在となっている。

来年度は新センター長の元、新たな体制を組み、本年度出来なかった「戸別アンケート」と「先進地視察調査」を行ない、「地域自治組織」設立を着実に推進しようと考えている。加えて、島根県中山間地域研究センター主催の「インターンシップ事業」にも立候補しようと思っており、地区住民の一層の「気付き」を生みたいと考えている。

また「GIS」は、島根県中山間地域研究センターの檜谷スタッフの方より、「来年度は研究会を立ち上げ、一緒にGISを習得しましょう」という提案があり、是非参加させて欲しいと思っている。また同時に、「GISモデル事業」への参加も提案があり、これにも参加させて頂こうと計画している。尚、当準備会議では「GIS部会」をいずれ立ち上げ、1地区最低1人の4地区計4人に私を含めた合計最低5人が所属し、地区の総合的管理の先頭に立とうと考えている。

## 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

本年度は、前記の理由等で計画していた事の半分も達成出来なかった。

唯一の収穫と言え、やはり「地元学」が開催出来た事だと考えている。それくらい「地元学」での「気付き」は新鮮で、これから「GIS」を進めて行く上での視覚的效果というものを加えると、計り知れないものがあると確信している。

前記した様に、来年度から当「北仙道地区」の「地域自治組織」設立の新体制が本格的に整う。故に、来年度からがいよいよ楽しみである。

地域魅力化応援隊員 氏名 岡崎 友臣

平成 26 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

豊川地振興センター

2. 配置年月

平成 26 年 4 月 1 日

3. 活動の概要

①活動の内容

I. 地域自治組織設立準備事業

・準備会の設立

設立準備団体の組織化、設立に伴う会議の開催

・次年度に向けた活動計画の検討

事業計画（まちづくり計画）の作成

・地域魅力化プロジェクト事業に関する事務支援

II. 地域魅力化事業

・GIS（地理情報システム）によるマップの作成事業

定住（空き家）、農地（耕作放棄地等）、防災（危険箇所等）、遺跡（観光等）  
多様な部門でのマップ（資料）作成、情報管理。

・歴史的遺産・名勝等の利活用再整備及び保存事業

豊川地区に数多く点在している歴史的遺産、名勝等の維持管理を図り観光資  
源の活用、交流人口の拡大を図る。

・次世代育成に関する事業

小、中学生を自主支援教室の開講、学習への意欲向上及び地区民との触れ合  
いを図り、郷土愛の育成、将来的な定住に繋げる。

②活動の成果及び効果

I. 地域自治組織設立準備事業

「地域自治組織設立準備会議の開催」

・第1回：平成26年4月25日（金）

運営員会後に開催。地域の現状報告、地域自治組織の説明。地域課題の解決、  
地区の将来の為に自主的に活動する組織であると説明する。

準備委員会の構成員については、現在の運営委員が妥当。正式な設立にあたり  
増員すればとの意見が出る。

・第2回：平成26年9月19日（金）

地域自治組織準備会の名称について「豊川地区まちづくり協議会準備会」に  
決定。

規約の説明においては内容等は不具合が生じた場合、進捗状況に併せて修正する。

役員選出については厳選なる話し合いにより決定。

・第3回：平成27年1月22日（木）

地域自治組織について意見交換では、「他地区の状況を見てからでもよいのでは？」「地域を盛り上げる活動を考えよう」などの意見が出る。

今後の活動計画については、地域自治組織の内容を「だより」等により地区民への周知や現況把握の為のアンケート（聞き取り）調査の実施を検討する。等の意見が出た。

#### 「地域自治組織説明会の実施」

期日：平成26年11月28日（金）

場所：豊川地区振興センター

豊川地区まちづくり協議会委員及び自治会会長の出席により実施。

人口拡大課により「これからの地域自治組織の仕組み」をガイドブックにより説明を受ける。



地域自治組織準備会議



地域自治組織説明会

## Ⅱ．地域魅力化事業

・GIS（地理情報システム）によるマップの作成事業

島根県中山間地域研究センター主催による地域サポート人材のスキルアップ研修「GIS（地理情報システム）活用連続講座【全5回】」に参加。

「地図を生かした地域づくりの事例」、「GIS とは？」、レイヤ作成や分析作業等の「地図太郎の基本操作」、現場調査や写真撮影などの「フィールドワーク」、農地・空き家・防災等「マップの活用」等の研修を受ける。

「地域を元気にする」シンポジウムに参加しGISの必要性を再確認する。

この参加者である魅力化応援隊員数名により「地図太郎」講習会を独自に開催。2月末現在、インストール及び復習を兼ねて4回開催している。

本来であればGISによる成果を報告しなければならないが、「地図太郎」等備品の購入が遅れたこともあり、現時点では活用及び操作方法の学習に留まる。



第4回 GIS 活用連続講座



第3回地図太郎研修会

・歴史的遺産・名勝等の利活用再整備及び保存事業

平成27年1月より「久々茂遺跡」「古矢遺跡除」「大谷城跡」「菰草山」において現地調査及びルート調査を実施、倒木処理、低木除去、除草作業等、地区の方々の協力を得ながら環境整備、既存の案内板等の維持管理を行う。

これにより、次年度も名勝地において県内外からの登山客や観光客の集客が期待でき「豊川」のPRやイベントを通じて交流人口の拡大に繋がる。



菰草山整備



大谷城跡整備

・次世代育成に関する事業

寺子屋事業活動報告として、

7月22日 モデルロケットづくり教室、7月24日・25日 ALT 英会話教室

8月2日 グラウンドゴルフ教室、8月18日～21日 自主支援教室

11月25日 ぐるぐるパンづくり、12月26日 凧づくり教室

1月14日 凧あげ大会、英会話教室（月4回実施）を開催。

この取り組みで、地区の方々に講師として参加いただき、豊川地区の特色のある様々な教室を実施、地区内の中高生もボランティアで携わってもらい、学習の習慣づけや意欲向上を図ることができた。

まちづくり協議会準備会においても、教材費の購入や人的な支援等、サポートを行った。



寺子屋自主支援教室



#### 4. 残された課題と今後の提案

##### I. 地域自治組織設立準備事業

豊川地区まちづくり協議会準備会を柱として、地域課題の整理・解決、情報の共有・周知の為の取組み、新たな地域運営の仕組みづくり、新たな推進体制を整えたい。地域のために住民が心を一つにして、夢と希望の持てる活力のある自治組織の設立を目指したい。

##### II. 地域魅力化事業

- ・GIS（地理情報システム）によるマップの作成事業について、今年度は活用及び操作方法の学習に終わってしまい事業計画通りに進まなかった。次年度から定住を中心にマップ制作を進めていきたい。

- ・歴史的遺産・名勝等の利活用再整備及び保存事業については、今後も行っていきたい。地区の観光資源、遺産・名勝、歴史・伝統を守るためにも不可欠と思われる。新しいイベントや勉強会など積極的に進め交流人口の拡大に努めたい。

- ・次世代育成に関する事業については、子ども地域モデルづくり事業の「つろうて子育て推進協議会」と連携、次世代に繋がる地区の財産となる子ども達の育成を図り「地元に残りたい」「将来的に帰りたい」と思える活動をしたい。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は上記の活動以外の活動として、下記の「地域づくり活動」への支援をさせていただきました。

- ・地区イベントのサポートとして、地域の現状把握の為、各種イベントの参加。独自のパソコン教室「パソコンカフェ」（月2回）の開催。
- ・地域事業のサポートとして、子ども地域活動モデルづくり事業、地域で取組むがん対策事業への支援。
- ・積極的な情報発信として、SNS（Facebook）によるイベントや歴史・文化等の発信。改訂版「豊川マップ」の利活用。

次年度は自主防災組織づくり、独居高齢者対策、過疎対策にも取組み、パワーアップした地域魅力化プロジェクトにより「人口拡大計画」に向け、大きなステップになるよう心掛けたい。

地域魅力化応援隊員 氏名 齋藤 浩文

平成 26 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

真砂地区振興センター

2. 配置年月日（配置期間）

平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月

3. 活動の概要

①活動の内容

◇地域自治組織設立準備委員会の開催 5 回

- ・市からのガイドブックの提示を受け 28 年度地域自治組織設立に向けての取り組み内容等について協議。



◇定住促進 都市との交流事業（イベント）の開催支援

- ・盆の帰省客に納涼祭へ参加してもらい真砂の魅力を再確認してもらい、定住促進をはかる。



◇真砂のお宝マップ作成 調査期間 8 月 5 日～9 月 5 日

- ・大学生インターンを募集採用し、1 か月の間真砂のお宝調査を実施し、マップづくりの実施。（山口大学 3 回生の参加）夏休みにおける小学生との交流の実施。





#### ◇日晩山登山支援

- ・地域内外から登山に訪れる愛好家の支援のための登山道の整備、イベントの実施。
- ・県外からの登山者が増えつつある。



#### ◇買い物バスから大型スーパーでの野菜販売への展開

- ・交通弱者の支援活動として買い物バスを4回／月実施。
- ・買い物バス運行に伴い大型スーパーでの野菜販売を実施。



## ②活動の成果及び効果

◆平成 28 年度地域自治組織の設立に向けて、基盤づくりが、まず大事であると考ええる。

そうしたなかで、無理のない取組みを考え実施した。インターンによるお宝マップ調査では地区外からの目線での提案もあり、将来の真砂を考えていくうえで参考になった。

買い物バス運行も高齢者には評判がよく、この取組みの延長として、大型スーパーへの野菜搬入販売は生産者の憩い、元気を見出したように感じる。

## 4. 残された課題と今後の展開

◆高齢化が進むうえで、現在の取組みをどう維持していくか深刻な課題である。

真砂地区の魅力を引出、今後 U・I ターンをどこまで確保できるかによって真砂地区の将来が決まってくる。幸いにして総務大臣表彰を受け真砂に住みたいという若い人の声が聞こえてくる。今後益々真砂の魅力を発信していく事が大切である。

## 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

◆地域の魅力を引出し発信していく事が地域にとって大きな宝になると思う。しかしながら「井の中の蛙」では本当の意味での魅力を見つけ出せない。地区外の人意見をしっかり聞き分析していく事が必要と考える。地域に住んでいる者が感じて無い魅力が地域の中にはもっともっとあるはずだから希望をすてずに頑張る事が大切。

地域魅力化応援隊員 氏名 栗山 三男

平成 26 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

西益田地区振興センター

2. 配置年月

平成 26 年 12 月 1 日～

3. 活動の概要

①活動の内容

A)いかだ流し

B)ひのきのキャンドル祭り i n 梅月

C)クリスマスイルミネーション

D)地域自治組織設立準備事業

②活動の成果及び効果

A)平成 26 年 7 月 26 日 向横田橋下河川敷地

前夜祭 午後 2 時より 鮎のつかみ取り等開催

平成 26 年 7 月 27 日 いかだ流し大会 総計 19 チーム参加

タイムレース 8 チーム参加



B)平成 26 年 10 月 4 日 梅月「あんな坂こんな坂」林道サイドに檜のキャンドルを設置し、神楽上演を行う。青年部事業に合わせ県外人にキャンドル祭を体験してもらった。



C)平成 26 年 12 月 13 日 二部構成にし、第一部にクッキング教室(若者交流会)とし、市内飲食店より講師を招き調理実習をした。男女 15 名の参加者があり、

クリスマス用料理の調理から立食まで盛り上がった。イルミネーション点灯式では、100名弱の参加者で、バンド演奏等で大いに賑わった。



D)山口県俵山での研修は参加できなかったが、仁保地区での研修に参加させてもらって、各地域ごとに状況が違うのでまるっきり真似は出来るはずもないが、考え方・方法論など参考になる事も多かった。

#### 4. 残された課題と今後の提案

他地区からの参入で有り、まだまだ地域の方々との交流なり、意思の疎通なりが不十分に思うが、少しずつでもセンターでの活動なり地区の行事なりに参加しながら地元住人方との距離を縮めて行きたいと思う。

地域自治組織設立準備事業を引き続き行っていき、組織設立を確かな目標としていけるように尽力したい。しかしながら、それぞれの認識が微妙に違う気がするので、そのすり合わせに努力を重ねたい。

年間を通しては、5月の地区民体育大会・7月のいかだ流し・10月のキャンドル祭り・12月のイルミネーション等、27年度もしっかり開催出来るように準備したい。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

解らない事だらけの中、地域や公民館（地区振興センター）・ルールや方法（方式）になじめるように頑張っている最中である。自治組織に関してはまだまだ時間がかかる課題であり、問題が山積している為、長い目で見守って頂きたいと思う。

地域魅力化応援隊員 氏名 真庭 太樹

平成 26 年度における地域魅力化応援隊員の活動について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

美濃地区振興センター

2. 配置年月

平成 2 6 年 4 月から

3. 活動の概要

①活動の内容

集落調査、美濃地区自治組織準備会設立、国交省「小さな拠点」事業

②活動の成果及び効果

集落調査では、まず自分の存在を知って貰う事から始め、美濃地区にどのような人物が居て、どのような関わり方をしているか把握しました。美濃地区自治組織設立準備会設立では運営委員会を中心に美濃地区の地域魅力化支援団体 3 団体を加入した 13 名で運営を開始しました。国交省の「小さな拠点」事業では美濃地区調査員として協力して貰った 26 名の方々が、自分のご近所さんに様々な質問を聞いて貰い、様々な意見や疑問点を伺い、地区民 162 名(返答率 99.4%)の回答があり、成果報告会で皆さんと協議しました。交通調査実験ではマイカーを持たない高齢者を中心に交通を考えるワークショップを開催し、移動が困難な人の様々な目的地がどこなのか？話し合い参考にして実際、交通実証実験を個人に説明・協力を仰ぎ実施した。結果として、美濃地区では乗換や時間的ゆとり等、色々な選択幅が増える可能性が分かった。また、先進地現地調査では、委員を含め、他地区の取組と美濃を照らし合わせる事が少なく、規模の近い比較対象になる、地区を視察する事によって、自分達に何が出来て何が足りないか？考えるキッカケになったと思う。



(第 1 回 美濃地区自治組織設立準備会 設立総会)



(藤山先生を招いて、小さな拠点づくり方等の講演説明会及びランチ会議)



(第2回 自治組織設立準備会の様子 美濃地区各世帯主にヒアリング調査に伺う  
26名に詳細な説明の元、実施して貰いました)



(第3回 美濃地区自治組織設立準備会 ～小さな拠点最終報告検討会～)



(交通対策ワークショップ並びに交通実証実験)



(チームを二手に分け、遠距離チームはゆめタウン～キヌヤ緑ヶ丘店まで行動)



(先進地現地調査として邑南町出羽自治会と柳井市日積自治会に赴きました)

#### 4. 残された課題と今後の提案

美濃は昔ながらの村役場が管理していた名残が色濃く残っている集落である、基本新しい事には構えてしまう中で、集落で少ない若者をどのように組織に参加して貰うかがカギになると思う。そこには教育場の閉鎖に伴い、諦め意識も漂っている中で、自分の子や孫に住んでraitai意識を持つ事から始めないと、本当の機運は上がらないと思う。地区民の企画や意識を敏感に感じ取り、自分の立場を弁え、地区民に一体感を持つ事が地域力を付ける近道だと思う。来年度は館長が変わり、転換期を迎えるが、一気に物事が大きく変わる集落ではない、時間は掛かるだろうが出来る事から少しずつ課題に向けて歩んで行く外、方法はないと考えます。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

祖母の故郷である美濃地区との今までの関わりは盆の墓参りと正月に遊びに行く程度でしたが、自分の住んでいる向横田と縁がある人も多く、親身になって皆さんと対話が出来たように思います。自分としては地区の様々な問題点や課題が分か

ってくると同時に疲弊している様々な組織が見えてきました。どこでもそうですが自分から地区民の懐に入り、懐を理解する事から始めないと自分の意図は相手には伝わりません。そこに信頼が生まれ、始めて協力して貰える基盤が出来るのです。自分としてはまだまだ地区民に信頼を頂ける域までは達していませんが、地道に進んで行きます。



(地区の皆さんと体当たりで現場に赴き、様々な話しを聞けました。)

平成 26 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

小野地区振興センター

2. 配置年月

平成 26 年 7 月 1 日

3. 活動の概要

(1) 活動の内容

① 地域自治組織の設立準備

地域自治組織を設立するための準備委員会を設置し、地域自治組織の必要性について研究・討議する。また、地域自治組織の設立に向けたスケジュールを検討する。

② 地域魅力化事業

ア ボランティアガイドの育成

目的としては、地区の方にふるさとへの愛着と誇りを持ってもらうとともに、地区外の方へも小野地区の素晴らしいところを知ってもらい交流人口の拡大を図るために、地区の歴史や地区内の景観を説明するガイドを育てる。

取組みとしては、イベントの開催時に経験者のあるガイドによる説明を実施するとともにガイドの育成を図るためにモデルコースを設定し合同研修を行う。

イ 小野地区内の石碑を調査・編集した「石碑（いしぶみ）」の発刊

地区内には、様々な石碑が多数存在していることから、先人たちの実績と地域づくりの足跡を後世に伝えるために、地区全域を調査し、研究誌「石碑（いしぶみ）」を編集し発刊する。

ウ 安全防災対策推進

小野地区においては、安全・安心なまちづくり推進に向け、自治会ごとの自主防災組織立ち上げに取組んできた、その結果、今日までに全ての自治会において自主防災組織を結成することができた。

今後の取組みとしては、各自主防災組織への活動支援及び地区内の自主防災組織の連携を図ることとする。

今年度においては、地区内の自主防災組織の連携を図るため、「小野地区自主防災組織連絡協議会」の設立に向けて調整する。

エ 「小野ふるさと誌」の発刊

地区の歴史は、その地区が目指してきた政治・経済・文化・社会を物語るものであり、その紐解きは次の時代への指針となるものである。

小野地区には、地区の歴史書として、大正末期に編纂された「小野村誌」がある。この「小野村誌」を基にして昭和期以降の記録を追加し、新しい「小野ふるさと誌」を編集・発刊することとする。

### ③ 地域魅力化応援隊員としての独自の取組み

地域自治組織の設立や地域魅力化事業とは異なる独自なことに取り組むこととした。

内容としては、まず、地区内の取組みや行事の様子をみなさんに知っていただくために、写真や文書をセンターや公民館のイベントで紹介する。また、ソーシャルネットワークを利用し、地区の様子や行事等を掲載することにより、地区内外の方に小野地区の魅力を広める取組みを行う。

## (2) 活動の成果及び効果

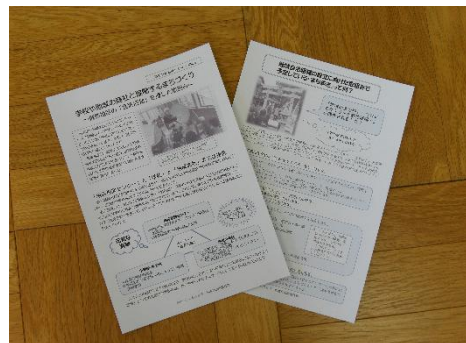
### ① 地域自治組織の設立準備

地域自治組織を設立するための準備委員会委員については、小野地区振興センター運営委員の方になっていただき、組織を立ち上げた。今年度は、現時点においての見込みも含め4回の会議開催である。

会議の議題としては、地域自治組織とは何か、また、組織の立ち上げの必要性について等を中心に会議を開催した。会議を開催するなかで、組織の設立を平成29年3月としスケジュールを進めて行くこととした。

また、準備委員会委員については、当初、地区振興センター運営委員会委員を準備委員会委員として進めてきたが、広く意見を聞くために増員の方で呼びかけることとし、数名の方から了承を得ている。

地域自治組織設立に向けての地区の方への周知としては、毎月、センターの便りとして発行している「おのつうしん」に、差込記事として「地域自治組織シリーズ」を、12月号から毎月、A4両面印刷により、地域自治組織の必要性や他地区の状況などの内容を紹介している。



### ② 地域魅力化事業

#### ア ボランティアガイドの育成

まず、経験のあるガイドが、「小野中学校ふるさと学習講演会」、益田市立歴史民族資料館が主催する「街角ウォーク」や益田市の文化遺産を未来につなぐ実行員会が主催する「地域の宝を探し、つないでみよう～小野地区編～」で地元の歴史や景観を説明した。



ボランティアガイドの育成については、事前の会議でモデルコースを定め、

経験のあるガイドの説明を参考に訓練することとした。

#### イ 小野地区内の石碑を調査・編集した「石碑（いしぶみ）」の発刊



平成25年度・26年度の2年度にわたり行う事業とし、平成25年度において、調査チームを編成し、地区内の取材活動を行った。平成26年度は、引き続き調査する地区についての調査を終え、編集作業に入った。

編集作業については、それぞれが調査した資料を持ち寄り、設置個所・設置年・材質や設置の理由等掲載する項目を協議した。

調査・編集する中で、地区の歴史やその当時の地区の様子をうかがい知れるような記述、記録を探ることができ、興味深いものであった。今後は、このように石碑を建立する機会も減ると思われる、現在あるものをこうして記録に残せることは貴重である。

#### ウ 安全防災対策推進

現在ある5つの自治会ごとの自主防災組織の連携を強化するために、「小野地区自主防災組織連絡協議会」を設立させた。

防災訓練等は、各自主防災組織が行っているが、訓練の実態や方法等を情報共有することで、より一層の危機管理体制を整えることができる。

今年度は、東日本大震災を体験した方を講師に招き講演会を行った。講演を機会に、地区の方の防災意識が向上することを期待しての講演会であった。



#### エ 「小野ふるさと誌」の発刊

まず、編集委員については、前年度までにおいて「小野村誌」の復刻改訂版を編集したメンバーをそのまま選出した。

選出した編集委員を専門分野や出身地に分け、それぞれが調査・研究し原稿を作成し持ち寄ることとした。歴史や地区の沿革等幅広い分野にわたっての調査となることから、発刊については平成27年度を目標に編集会議を重ね、今年度は、たたき台とする原稿作りに取り掛かることとした。

#### ③ 地域魅力化応援隊員としての独自の取組み



地区内の景観の良い場所に行き、写真を撮影した。また、地区内で行われる小中学校や保育所の運動会、グラウンドゴルフ大会等に出向いて、競技する写真を撮影した。この撮影した写真を文化祭において、「小野の魅力」というコーナーを設け掲示した。小野地区には、内外に広めたい場所がたくさんある。これらを紹介しようと思い掲示した。

また、地区内や地区振興センター等の出来事等を紹介するために、新たに小野地区振興センターのフェイスブックを登録し、適時内容の更新を行ってきた。地区内外の方へ、取組みを知っていただくために発信することができた。

#### 4. 残された課題と今後の提案

地域自治組織の設立に向けては、始まったばかりで、地区の方がこれからどう理解し、どう思っているのかを探っていかなければならない。

そのためには、年度が替わった早い段階でアンケートを実施することではないかと考える。先行5地区の担当者に様子を聞いても、地区の方がどうしたいかを知るのが早道、というようなことを言われた。住民アンケートの結果を見ると、今後の方向性が見えるような気がする。

魅力化事業については、この地区が歴史のあるまちであることと、海沿いの景観等を併せて地区内外に広めていくことが今後の取組むべきことだと考える。これについては、現在まで実施してきた、歴史を紐解き後世に繋いでいく資料集の編集を続けていくべきだと思う。このように調査した歴史を観光に繋げて、交流人口を増やしていくことができれば幸いである。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

初年度となる今年度は途中からの配属となった。当初は、地区の様子もやるべきことも見えずに不安の中でのスタートであった。いまだに暗中模索の中での取組みであることに変わりはない。

地域自治組織の設立については、センターだよりも差込記事として掲載し地区の皆さんに投げかけているつもりであるが、いいとも悪いとも反応がない。自分たちのまちを自分たちで相談し作っていくことに対して、自分としては、悪いとする材料は見当たらない。自分が若い時に、祭りや地区の行事で“にぎやかにやっていた時代”を取り戻したい気持ちでいっぱいである。地域自治組織の設立は、そのための方法だと思い取り組んでいる。

地区の魅力はいろいろあり、みなさん感じていると思う。これから先も、この魅力を繋げていきたいと思っておられることでしょう。わが町は、住みやすいまちだと自分では思っているが、他の方も同感だと信じている。

今取り組んでいる地域自治組織の設立や地域魅力化事業が、すぐに結果の出るものだとは思わないが、今地区に住んでいる人たちの気持ちが前向きに動くことを信じて次年度も取り組んでいきたいと思っている。

地域魅力化応援隊員 氏名 若槻 久嘉

平成 26 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

中西地区振興センター

2. 配置年月

平成 26 年 4 月から（1 年目）

3. 活動の概要

（1）活 動 内 容

① 『地域自治組織設立準備事業』

当地区連合自治会役員等を構成員として、中西地区自治組織設立準備委員会を立ち上げ、説明会や研修会を開催しました。

★ 応援隊員の活動

- ・説明会等の開催通知
- ・会議資料や会議録の作成
- ・予算(補助金)の管理・執行等



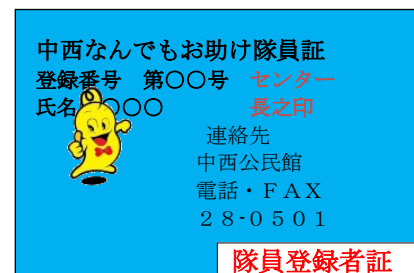
② 『なんでもお助け隊事業』

独り住まいのお年寄りや高齢者のみの世帯で、行動困難な方の住宅周りの草刈りや買物等を支援していただける方を募り、「なんでもお助け隊」を結成しました。

また、この取り組みは 3 年前から実施している、中西ヘルスポイント制度を活用し、その拡充化を図るものでもあります。

★ 応援隊員の活動

- ・制度の広報や支援登録者の募集
- ・隊員登録者証の作成
- ・登録者の傷害保険加入手続き
- ・予算(補助金)の管理・執行



③ 『環境保全対策事業』

当地区では、平成 24 年度から「不法投棄見廻り隊」を結成しており、この活動を発展させ、地域見廻り活動とともに、合同パトロールや不法投棄防止監視カメラの維持管理・啓発看板の設置、広報啓発活動、各自治会花壇等の植栽を推進して美しく誇れる地域づくりを目指しました。

また、新たに有害鳥獣対策として、駆除講習会や住民の駆除資格取得支援をしております。

★ 応援隊員の活動

- ・見廻り隊活動の計画立案、実施、各会議録作成、各講習会の案内
- ・見廻り隊事業推進用資材や花木苗等の調達配布
- ・見廻り隊員及び関係機関・団体との連絡・調整及び地区内の巡回活動
- ・有害鳥獣駆除花火使用講習会案内等、各予算（補助金）の管理・執行



不法投棄パトロール



中垣内平原公園植栽

#### ④ 『交流拠点(大道山)整備事業』

益田市で標高が3番目に高い、大道山山頂（標高 419.6 mで語呂合わせが良いこと来る。）に石碑を設置し、地区内外からの交流人口拡大を図りました。

##### ★ 応援隊員の活動

- ・ 石碑調達等の補助
- ・ 石碑周りの植栽
- ・ 予算(補助金)の管理、執行等



大道山石碑



初日 遥拝登山

#### ⑤ 『中西いき生きランド活動』

「中西いき生き市」及び中西ヘルスポイント制度は、平成24年から毎月継続的に実施しており、平成27年2月で3周年を迎えました。

この活動を通じて、地区民の生産・出荷活動における生き甲斐や収入に繋げ、併せて、その場をサロンとして利用していただいております。今年度の新規事業「なんでもお助け隊」において、当ポイント制度の拡充を図りました。



7月「いき生き市」



1月「市」サロン

##### ★ 応援隊員の活動

##### ◎ 「中西いき生き市」

- ・ 毎月第3土曜日に実施する「いき生き市」の設運営全般
- ・ 生産者及び関係者との連絡・調整、集荷支援及び展示物品の管理
- ・ 特別イベントの企画
- ・ 「市」の精算処理、財務管理

##### ◎ 「中西ヘルスポイント制度」

- ・ ポイント対象センター事業の活動支援、ポイントの事務処理
- ・ 「市」運営等による財源の確保、割引券(地域通貨)の精算処理
- ・ 協賛事業所の開拓、連絡・調整
- ・ 制度の拡充

#### ⑥ 『その他地域づくり活動などへの支援』

地域づくり活動やウォーキング等、各自治会、子育て、食育、老人会活動などにおいて、関係団体と連携・協働活動をしております。



地区民と児童の協働



協働活動植樹

## (2) 活動の成果及び効果

### ① 『地域自治組織設立準備事業』

「中西地区自治組織設立準備委員会」を立ち上げ、主に委員会を対象に説明会等を開催した中で、出席された殆どの方が限界集落への強い危機感を持たれており、何か策を講じなければと言う意識は感じられるものの、自治組織設立への機運上昇については、今一步でこれからだと思っております。

### ② 『なんでもお助け隊事業』

2月現在、15名の地区民が「お助け隊員」登録され、傷害保険加入等も完了しており、いつでも活動可能ですが、今のところお助け依頼がありません。しかし、これから「お助け隊員」を必要とする高齢者家庭がより増加すると思います。

### ③ 『環境保全対策事業』

「不法投棄見廻り隊」の日々の活動に加え、合同パトロールを昨年11月に隊員11名が参加して実施、来る3月にも行う予定で、新たに啓発用立て看板の配布設置(10本)をしております。

一方、植栽事業では、各自治会に花の苗を配布し、花いっぱい運動を展開、大道山を交流拠点とするべく、山頂へツツジを約30本植樹する予定です。

これらの活動は住民の関心度も高く、環境美化への意識が高まっており、当地区の住民が不法投棄をすることなど無いと確信しております。

### ④ 『交流拠点(大道山)整備事業』

山頂へ石碑を設置、中垣内自治会が打歌山神社を移設造営後、元旦には荒天にもかかわらず、初日遥拝登山客が約300名登頂されました。今後、地区内外から多くの方が訪れる交流拠点になれば幸いです。



### ⑤ 『中西いき生きランド事業』

#### ◎「中西生き生き市」

「市」は、毎月連続開催し、この2月開催で、今年度延べ2,180人、1回平均約200人の地区住民等が訪れ、出荷・出店者数も延べ293、1開催平均26の個人・団体が出品しており、高齢者等が家庭菜園で作る野菜等も出荷され、生産・出品を通じて楽しみや生きがいを生み出しております。

また、併設の「ふれあいサロン」は毎回多くの方が利用、地区民の貴重な交流・ふれあいの場として定着しており、皆さん開催を楽しみにしておられます。

#### ◎「中西ヘルスポイント制度」

ヘルスポイント割引券(地域通貨)は、この2月末現在で今年度630枚発行し、7割以上回収(446枚)、センター事業への参加者も増加しており、参加される方々が、ヘルスポイントを楽しみに研修や教室などの事業に積極的に参加されていることから、参加される皆さんが元気で生きがいを覚え、活性化が図られていると感じております。

### ⑥ 『その他地域づくり活動などへの支援』

これらの活動を通じ、地区で子供を育てるという意識や子供達が先輩を敬う気持ちなどが助長されていると思います。

#### 4. 残された課題と今後の提案

##### ① 『地域自治組織設立準備事業』

自治組織化について、地区民の理解を得ることは中々難しいことですが、今後も先進地の現況を踏まえて設立の必然性を説き、地道に推進する必要があります。

##### ② 『なんでもお助け隊事業』

ご多分に漏れず、当地区も少子高齢化が加速しており、今後、住民に対して色々なことをサポートする必要があると思いますので、この事業を拡充するとともに、他地区と連携協働する仕組みができれば良いと思います。

##### ③ 『環境保全対策事業』

不法投棄については、殆ど地区境界付近で発生していることから、地区外とも連携した住民のモラル向上を図り、地道に活動が続ける必要がありますが、当地区の見廻り隊が回収した不法投棄物で電化品等も益田市で回収していたければ助かります。

##### ④ 『交流拠点(大道山)整備事業』

交流拠点として環境を維持するため、地元自治会のみならず、地区を上げて取り組み、展望台の整備や年間を通じた広報・イベントの開催が必要だと思います。

また、参道沿いにオブジェを展示するとか、標高の語呂が良いので、新たなパワースポットとして発信するのも一法だと思います。

##### ⑤ 『中西いき活きランド活動』

この活動は、地区民が健康で生きがいを持ち、いき活きと暮らせるように自己完結型ですが、財源の安定確保が課題です。

また、この事業を活用されている殆どの人々が、センター周辺の住民ですので、もっと広く地区民が集える場となるよう、J Aなど他の組織と連携し、拡充を図りながら継続することが大事だと思います。

##### ⑥ 『その他』

当地区も面積は農地が多いですが、農業従事者の高齢化や担い手・後継者不足による耕作放棄地の増加が深刻になっており、今後、鳥獣害対策や防災面からも集落営農的な仕組みを築き、農地の維持管理をする必要があろうかと思っています。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

応援隊員として務めさせていただいた中で、自治組織設立に向けての成果は、目に見えるものはございませんが、毎月実施している「中西いき活き市」や「中西ヘルスポイント制度」は、継続拡充することにより、いずれ立ち上げられるであろう地区自治組織の血となり肉となると思う思いから、特に力を注ぎました。この1年、楽しく務めさせていただき、ありがとうございました。

今後も、何らかのかたちで地域に関わっていきたいと考えております。

## 二川地区

### 地域魅力化応援隊員 氏名 小原 静伍

平成 26 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

#### 1. 配置部署

二川地区振興センター

#### 2. 配置年月

平成 26 年 4 月から

#### 3. 活動の概要

##### ①活動の内容

二川地区地域自治組織設立準備委員会（以下：準備委員会）の事務局

- ・準備委員会及び同役員会の会議設定・調整・資料作成
- ・地域課題の調査・研究等の支援

##### ②活動の成果及び効果

準備委員会：8 回（予定含む）

|           |                                                                                                      |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9 月 17 日  | 第 1 回準備委員会<br>参加者 委員 15 人・事務局 3 人<br>会議内容<br>準備委員会の立上げ<br>美都支所担当課より自治組織の説明<br>役員の選出<br>今後の話し合いの進め方   |
| 10 月 21 日 | 第 2 回準備委員会<br>参加者 委員 15 人・事務局 4 人<br>会議内容<br>班別で意見交換：テーマ「地域自治組織」                                     |
| 11 月 18 日 | 第 3 回準備委員会<br>参加者 委員 14 人・事務局 4 人<br>会議内容<br>班別で意見交換：テーマ「二川の 10 年後はどうなっているか」<br>地域自治組織設立準備事業費（予算・規約） |
| 11 月 25 日 | 第 4 回準備委員会<br>参加者 委員 19 人・事務局 4 人・本庁より 2 人・支所より 1 人<br>会議内容<br>ガイドブック（案）の説明と質疑                       |

|        |                                                                                                                                                                                                               |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12月16日 | <p>第5回準備委員会</p> <p>参加者 委員14人・事務局4人</p> <p>会議内容</p> <p>班別（世代ごと）で意見交換：</p> <p>テーマ「前回地域自治組織の話を聞かれて思われたこと」</p> <p>「地域の特色を出すために自分達(地域)でできること」</p> <p>研修について</p>                                                    |
| 1月20日  | <p>第6回準備委員会</p> <p>参加者 委員16人・事務局4人</p> <p>会議内容</p> <p>ワークショップ</p> <p>テーマ「二川で取り組みたい課題」</p>                                                                                                                     |
| 2月17日  | <p>第7回準備委員会</p> <p>参加者 委員15人・事務局4人</p> <p>会議内容</p> <p>学校跡施設活用について</p> <p>ワークショップ</p> <p>テーマ「温泉を活かした地域づくり」</p> <p>「地域の特産品を見つけ育てる方法」</p> <p>「定住してもらうための方法」</p> <p>今後の話し合いについて</p> <p>研修について</p> <p>地区広報について</p> |
| 3月17日  | 第8回準備委員会(予定)                                                                                                                                                                                                  |

役員会：6回（予定含む）

|       |                                                                                                 |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月8日 | <p>第1役員会</p> <p>参加者 委員3人・事務局4人</p> <p>会議内容</p> <p>ガイドブック（案）説明会の報告</p> <p>第2回準備委員会協議</p>         |
| 11月6日 | <p>第2回役員会</p> <p>参加者 委員3人・事務局4人</p> <p>会議内容</p> <p>第3・4回準備委員会協議</p> <p>地域自治組織設立準備事業費（予算・規約）</p> |
| 12月2日 | <p>第3回役員会</p> <p>参加者 委員3人・事務局4人</p> <p>会議内容</p> <p>第5回準備委員会協議</p>                               |

|       |                                                                                                              |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月13日 | 第4回役員会<br>参加者 委員2人・事務局3人<br>会議内容<br>第6回準備委員会協議<br>研修について<br>来年度事業<br>二川の未来を創る会『二川まちづくり提言書』の活用<br>小学校跡地利用との協働 |
| 2月3日  | 第5回役員会<br>参加者 委員3人・事務局4人<br>会議内容<br>第6回準備委員会について                                                             |
| 3月9日  | 第6回役員会(予定)                                                                                                   |

#### 研修

|      |                             |
|------|-----------------------------|
| 3月6日 | 研修会 講師：藤山浩氏<br>対象：準備委員・地域住民 |
|------|-----------------------------|

#### 広報

|     |                            |
|-----|----------------------------|
| 2月末 | 準備委員会立ち上げから現在までの状況を全地区民に広報 |
|-----|----------------------------|

#### 4. 残された課題と今後の提案

地域の実状を知り課題への取り組みを重ねることで、委員会で自治組織設立に向けた共通意識を醸成している段階である。地域課題への取り組みに関するワークショップでは「温泉」「学校跡施設」に関心が高いことがわかり、二川地区の課題解決の要になると思われる。

今後は課題の関連性や合わせ技の考案、自助・共助・公助の整理作業を行い、『二川まちづくり提言書』も活用しながらまちづくりプランの策定を進めたい。

また、跡施設活用検討委員会との協働や、自治組織に対する地域の認識と同調しながら話を進め、委員会の進捗状況を地域に定期的に広報することでスムーズに実行体制に入れるのではないかと考える。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

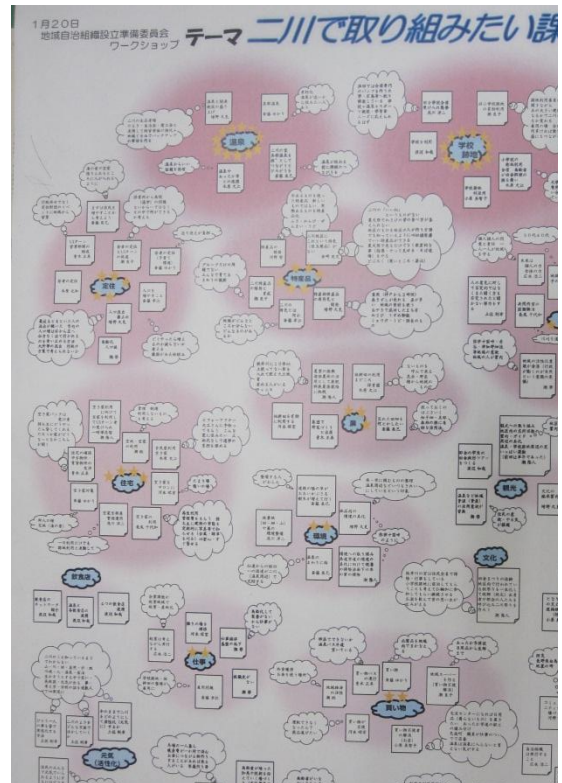
自治会や各団体によってすでに行われている自治機能や、一人で頑張っておられる方がおられるのもっと知っていききたい。具体的な組織図はまだ描けないが、住民で同調して行う事・個人の発想を活かせる仕組み作りが自治組織だと考える。



班別会



ワークショップ



地域の取り組みを共通認識



全体会

毎回事前にテーマを決めて意見を考えてきてもらう。10代から70代まで、年齢も経験も違う20人の委員さん全員から広く意見を聞けるように、会議は少人数の班別会やラベルワークを取り入れて行う。

平成 26 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

匹見上地区振興センター

2. 配置年月

平成 26 年 5 月

3. 活動の概要

①活動の内容

I、転出減を図る取組

II、交流人口拡大のための取組

III、その他

IV、設立準備委員会設立

②活動の成果及び効果

I の取組として、高齢者と小中高生の交流と有害鳥獣対策に取り組んできました。

高齢者との交流では、地元の伝統文化の継承を中学生につたえる為、地元の方を講師に迎え、盆踊りの太鼓・口説き・踊りを学びました。

成果として、中学生は普段携わることのない伝統文化に触れて、学ぶことができた地域の方や中学生も交流出来たと思います。

有害鳥獣対策事業では、鳥獣煙火講習の受講を各集落に促し、支援事業費を利用して鳥獣用煙火と煙火用ホルダーを購入しました。

効果として約 36 名が更新され、新規に 10 名の方が鳥獣煙火講習を受講しました。また、支援事業費で購入した煙火用ホルダーと鳥獣用煙火を新規受講者の方に、更新の方にも鳥獣用煙火を配り集落単位・地区全体で鳥獣対策に取り組むことが出来ました。



【中学生との盆踊り練習の様子】



【鳥獣用煙火講習の様子】

II の取組としてわがまち自慢フェア、匹見の自然・環境を活かしたイベントに取り組んできました。

わがまち自慢フェアは毎年 10 月に駅前ビル EAGA において匹見地域の魅力・

特色のある特産品を販売、匹見地区の伝統芸能を知ってもらい地域振興を図る取り組みで、

成果としては約 500 名の方々に足を運んで頂き匹見地域の特産品を販売することで消費者のニーズが把握できたと思います。

匹見の自然・環境を活かしたイベントでは 2 月に三葛地区での山里体験・9 月に道川地区でのきのこ狩りを実施しました。

9 月のきのこ狩りでは 10 名の参加者があり、道川地区の山できのこを採取し食用、食用でないもの等に分け、食用はその場できのこ汁にしました。匹見で取れたきのこをその場で食したことに参加者は喜んでいました。



【わがまち自慢フェア】



【きのこ狩り】

Ⅲの取組では、三葛笹山地区のみのり会による特産品の商品ラベルに対して支援を行い加工品の販売促進につなげることで地域振興を図りました。

ラベル作成では、今まで使用してラベルを見直し、みのり会代表者、地区振興センター、匹見地区地域コーディネーターとの話合いで新たなラベルを作成することができました。

新しくなったラベル（わさび味噌・栃餅）は、空港、道の駅、に新たに販売されることになりました。



【わさび味噌ラベル】



【栃餅ラベル】

Ⅳの地域自治組織設立準備事業では7月に事務局4名、準備委員12名で地域自治組織準備委員を設立し規約を制定しました。準備委員ではまず事務局・委員の勉強からということで島根県中山間地域の職員、本庁・人口拡大課の方より地域自治組織についての説明をしていただきました。1月には広島県庄原市の方に視察に行き少しづつではありますが事務局・準備委員が自治組織に対して理解し、来年度は各自治会に説明しステップアップ出来ればと思います。



【地域自治組織設立準備委員会の様子】



【先進地視察の様子】

#### 4. 残された課題と今後の提案

残された課題としては、地域の高齢者率が高く、伝統芸能の伝承等の講師の方の負担が大きく早急の後継者育成が望まれる。有害鳥獣の煙火講習についても講習を受講した方も若い世代の方が少なく数年後、集落単位での鳥獣対策に対しての管理が難しくなり、田畑の管理能力が弱くなっていくと考えられ、今後若い世代に講習を受けてもらうにはどうすればいいか、イベント参加者においては、ほぼ毎年参加者(固定客)がかわらず新規の参加者、お客さんを増やさなければ交流人口の増加は難しいと思われるし、増やす為にどのような仕掛けがいいのかが今後の課題であると思います。

また、市内のイベントに参加して頂く際、地元団体の方々が高齢者も増え市内に荷物の運搬、準備、片づけ等が負担になって、イベント参加団体が減少傾向にあるので市内に出ずとも町内において他イベントと協賛し、イベント同時開催を行い地域の魅力を地域内から地域外に発信できれば地域団体の負担を減らすことができ参加しやすいのではないかと思います。

地域自治組織はいかにして住民に理解してもらい地域課題に対しての意見を聞き解決するかが鍵になると思っています。それには白紙の状態よりは少し絵を描いた状態で自治会に説明に入ってみるのも一つの手段だとおもいます。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動をふりかえって

私は5月より匹見上地区振興センターに配属になりました。

活動を振り返ってみて地域魅力化プロジェクトに関して島根県中山間地域県中センターの方、人口拡大課の方に地域自治組織の説明をしてもらったり、まちづくりに関しての研修等に参加したりと学習する一年だったと思います。

研修の中でも千葉県の研修では初めて「地域おこし協力隊」の人達の事例発表や話が聞けたことは良かったです。

12月には応援隊員の皆さんと山口県仁保地区への先進地調査を実施できたのは、その場で隊員同士考えを共有出来良き研修になったと思います。また交流会では各地区の応援隊員さんと話をしたり隊員同士の繋がりが出来たかと思っています。

来年度、どの程度地域魅力化プロジェクトが進むか不透明ですが地域の方々、準備委員さん、事務局と協力や話し合いの場を設けながら、地域の方々と「まちづくり」をしていきたいと思っています。

地域魅力化応援隊員 氏名 高田 純子

平成 26 年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

道川地区振興センター

2. 配置年月

平成 26 年 4 月

3. 活動の概要

①活動の内容

★地域支援

- ・地区 6 集落の現状把握、高齢者の見守りの為の定期的な地区巡回「声かけ訪問」を実施。

《重点集落》

今年度より「高齢化により自治会活動停止の申し出」があり、連合自治会長が会長を兼務することになった集落の会長補佐として巡回を実施。広報の配布や行政サービスの情報伝達にあわせ、安否確認を行う。

- ・ぬくもり弁当(週 4 回の配食サービス)の開始に伴い、団体間の調整、衛生指導会の開催、事務一般、宅配業務と安否確認



声かけ訪問 12 月の様子



「ぬくもり弁当」配食サービス

★地域自治組織設立準備事業

- ・地域づくり協議会を構成する各種団体及び地域住民の連絡、調整役として自治組織設立準備に向けた話し合いの促進、視察研修等の調整、実施
- ・地域の現状（地域運営体制、組織グループ、目的別事業等々）の集約
- ・設立に向けての進捗状況を周知する為、協議会だよりの発行、配布



地域を語ろう「井戸端会議」 現状把握、地域課題共有の場



視察研修会

テーマ：集落支援センター創設による小規模高齢化地域の運営

### ★魅力化事業

- ・地区内の各種団体の連絡、調整、企画等、実行委員会及び住民と地域の魅力を高める活動に取り組む。



地区民親睦交流会企画会議

地域住民が一堂に会し、共に学び合う場

- ・「旧割元庄屋美濃地屋敷」「道の駅匹見峡」「産直市出合いの里」の3施設を交流結節点とし、春祭りや秋の収穫祭、菊花展等、イベント全般の企画、運営の活動支援。



道川神楽社中が地域の魅力をPR

出合いの里・美濃地屋敷での交流事業

- ・加工販売グループの販売促進支援（食品表示、パッケージ等 制作）



- ・新規団体「配食サービス試験事業」の運営、福祉、高齢者ニーズの把握、課題等の把握等、実践を伴う（ボランティア、利用者双方の視点からの）調査



#### ★各種団体活動支援



#### ★ 地区振興センター、公民館業務の企画、運営補助。



#### ②活動の成果及び効果

今年度、集落自治運営が困難となった地域に重点を置き、連合自治会を中心に、民生委員、センターが連携し、広報の配布や情報伝達にあわせ、見守りを強化したことで、集落の孤立感を防ぐ事が出来たと考えます。

また、配食サービスに合わせた声掛けにより、高齢者の声を聞き取ることができ、地域が抱える課題の多さも浮かび上がってきました。

自治組織設立準備に向けては、団体関係者を中心に、自治組織について、地域の現状とあわせながら、説明し、理解を深めました。「現状の把握と課題の共有、今後の運営体制を考える」を目的として開催した「井戸端会議」では、活発な意見交換会となり、今後の地域づくりにおいて、一定の方向性が得られたと考えます。

イベントや、企画展、世代間交流活動、また、田舎体験等の地域外体験交流活動など、地域資源を活用した幅広い様々な取り組みは、道川地区ならではの魅力をPRするだけでなく、地域の良さを再確認する機会となっています。小さな活動と成功体験を積み重ねることによって、地域資源活用の掘り起こしと発展が見込まれます。

#### 4. 残された課題と今後の提案

道川地区では、高齢化によるひとりひとりの暮らしが深刻な状況が進み、自動車免許の返納をよぎなくされ外出の機会が極端に減少、通院、買い物、草刈、除雪、そして食事等、様々なことが日々の暮らしの不安の種になっており、地域の最重要課題となっています。誰もが長年住み慣れた地域を離れることなく安心して暮らせる方策を検討し、地域で出来ることを試しながら、模索しています。

しかしながら、地域だけで支えるには限度もあります。今年度始めた配食サービス試験事業での収支は厳しい結果がでました。完全ボランティアでは、持続的な活動は難しいと思われます。今後は、弁当づくりにあわせ、「産直市出合いの里」の食堂を活用して食事の提供を行うなど、財源確保の為に試験事業を行っていく必要があります。

地域維持に不可欠な転入者を受け入れるためには、受け入れ住宅の確保、収入の場、定住を呼びかけるための情報発信など、クリアすべきことがたくさんあります。

地域自治組織を設立するにあたって、いろいろな立場からの声を聞く「井戸端会議」を開催しました。活発な意見交換が行われ、有意義な会議でした。地域の特色や実情に沿った運営体制を構築するためには、今後も話し合いを重ねていくことが大切であると考えます。

行政もまた、地域の現状を理解し、地区振興センター、公民館と共にしっかりサポート、協働する体制を強化すべきと考えます。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

道川公民館、道川地区振興センター勤務から、これまでの地域づくり支援活動の中で見えてきた課題に取り組む為、応援隊員業務に就くことになりました。

今年は、様々な地域活動を行う中で、「やりすぎじゃー」「忙しすぎるでー。」との声が多く聞かれました。そのような状況の中で、自治組織設立に向けての話し合いは、「はよーせにやー 人がおらんよーなるで。」でした・・・。

人口が少なくなるということは、ひとりひとりの役割が増えていくということです。(このままでは、先へ続かない・・・。)

と、思いきや、数少ない若い世代が、自治組織の設立に向けた話し合いに積極的に参加してくれました。(おっ！これは希望が持てるぞ)

地区巡回では、高齢の方が足をひきずりながらも、笑顔で出迎えてくださり、いつもの言葉は「ありがとう。」(励まされたのは私でした・・・)

人口 146 人、厳しい自然環境の中、ひとりひとりが自分の役割を意識し、助け合って、繋がりながら、「道川」を守ってこられたこと。ライフスタイルや価値観の違いはあっても、そんな「思い」がしっかり次世代にも継承されていること。「お互い様」の気持ちに地域が支えられていることを改めて実感した 1 年でした。

地域の方の協力、暖かい思いやりに助けられ、教えられながら、「活動」をさせて頂きました。ありがとうございました。

(趣旨)

第1条 この要綱は、地区振興センター等を中心とした区域（以下「地区」という。）において、人口減少、少子高齢化等により集落や自治会単位では地域運営が困難となりつつある状況を踏まえ、地域運営を主体的に行う新たなコミュニティの創設及び地域の魅力の創造（以下これらを「地域魅力化」という。）に向けて、地区における当該組織の設立を支援し、並びに地域住民が抱える地域課題の整理及び情報の共有化による住民自治機能の充実や機能強化を支援するため市が設置する地域魅力化応援隊員（以下「応援隊員」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(配置)

第2条 市長は、地域魅力化に向けて次の各号のいずれかの事業を実施する地区の地区振興センターに応援隊員を配置する。

- (1) 益田市地域魅力化プロジェクト事業補助金交付要綱（平成26年益田市告示第76号）に規定する地域魅力化プロジェクト事業
- (2) 地域自治組織設立支援等事業補助金交付要綱（平成25年益田市告示第83号）に規定する地域自治組織設立支援等事業

(任命)

第3条 市長は、公募又は第2条各号に規定する事業を実施する地区からの推薦により、地域の実情に精通した者、地域コミュニティの構築に意欲をもって取り組む者又は地域の活性化の推進に関して知見を有する者の中から、応援隊員を任命する。

(身分)

第4条 応援隊員の身分は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第172条第3項ただし書及び地方公務員法（昭和25年法律第261号）第3条第3項第3号に規定する非常勤の嘱託員とする。

(任期)

第5条 応援隊員の任期は、1年以内とし、再任用を妨げない。

(所掌事務)

第6条 応援隊員は、地域魅力化プロジェクト事業又は地域自治組織設立支援等事業を実施する団体の支援に関する事務を所掌する。

(報告)

第7条 応援隊員は、毎月前条に規定する事務について、地域魅力化応援隊員業務報告書（様式）を作成し、業務内容を証する資料を添えて、翌月10日までに市長に提出しなければならない。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この告示は、平成26年4月1日から施行する。

(有効期限)

- 2 この告示は、平成29年3月31日限り、その効力を失う。





定住キャラクター

発行

平成 27 年 3 月

発行元

益田市政策企画局人口拡大課

〒698-8650 島根県益田市常盤町 1 番 1 号

TEL 0856-31-0600 / FAX 0856-23-7708

E-Mail : [jinkokakudai@city.masuda.lg.jp](mailto:jinkokakudai@city.masuda.lg.jp)